

[様式 1～8] 自己点検・評価報告書

令和元・2年度
自己点検・評価報告書

令和2年9月

学校法人電波学園

愛知工科大学自動車短期大学

目次

自己点検・評価報告書

【基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果】

[テーマ 基準Ⅰ-B 教育の効果]1

[テーマ 基準Ⅰ-C 内部質保証]7

【基準Ⅱ 教育課程と学生支援】

[テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程]11

[テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援]27

【基準Ⅲ 教育資源と財的資源】

[テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源]56

【基準 I 建学の精神と教育の効果】

[テーマ 基準 I -B 教育の効果]

<根拠資料>

- 提出資料
- 1 学生便覧 2019
 - 2 ウェブサイト 大学理念
<https://www.autjc.ac.jp/outline/spirit/>
 - 3 2020 学生募集要項
 - 4 愛知工科大学自動車短期大学 学則
 - 5 ウェブサイト 在学生へ（学生便覧・授業概要）
https://www.autjc.ac.jp/current_students/
 - 6 ウェブサイト 大学理念（教育研究上の目的）
<https://www.autjc.ac.jp/outline/spirit/>
 - 7 ウェブサイト 大学理念（教育目標）
<https://www.autjc.ac.jp/outline/spirit/>
 - 8 大学案内 2020
 - 9 ウェブサイト 教育方針（三つのポリシー）
<https://www.autjc.ac.jp/outline/policy/>
 - 10 ウェブサイト 情報公開（学習実態・学習時間 学習成果、単位取得の状況）
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/study_actual_conditions2019_jc.pdf
- 備付資料
- 9 ウェブサイト（卒業生からの意見聴取及びその対応）
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/obog_iken2019_jc.pdf
 - 10 ウェブサイト（卒業生の就職先会社からの意見聴取及び分析結果）
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/obog_syusyoku_bunseki2019_jc.pdf
 - 11 ウェブサイト（成績の分布状況）
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/bunpu_jc2019.pdf
 - 12 ウェブサイト（学修実態・学修時間、学修成果、単位取得の状況）
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/study_actual_conditions2019_jc.pdf
 - 13 ウェブサイト（卒業生の就職・進学状況、資格取得状況）
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/syushokushikaku_jc2019.pdf
 - 14 オープンキャンパスガイド（2020年度）
 - 15 AUT自動車教育入門

- 16 学級日誌
- 17 教育懇談会 配布資料
- 18 入学者選抜ガイド

[区分 基準 I-B-1 教育目的・目標を確立している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学科・専攻課程の教育目的・目標を建学の精神に基づき確立している。
- (2) 学科・専攻課程の教育目的・目標を学内外に表明している。
- (3) 学科・専攻課程の教育目的・目標に基づく人材養成が地域・社会の要請に応えているか定期的に点検している。(学習成果の点検については、基準 II-A-6)

<区分 基準 I-B-1 の現状>

「学園建学の精神」に基づき、目的、使命及び教育研究上の目的を学則（提出-1）第1条（目的）、第1条の2（使命）及び第1条の3（教育研究上の目的）に定めている。

愛知工科大学自動車短期大学学則

（目的）

第1条 愛知工科大学自動車短期大学（以下「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育法に基づき、一般教養ならびに産業技術に関する研究と実務的指導を行い、社会から喜ばれる知識技能と歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、もって地域社会の産業発展に寄与することを目的とする。

（使命）

第1条の2 本学は、学園建学の精神に則り、未来を創る夢に挑み、夢の実現によって社会に貢献することを使命とする。

（教育研究上の目的）

第1条の3 本学は、人材の養成に関する目的及び教育研究上の目的に関し、必要な事項を別に定める。

また、教育研究上の目的及び教育目標を学生便覧（提出-1）に下記のとおり定めている。

愛知工科大学自動車短期大学の教育研究上の目的

本学は、国土交通省の定めた認定大学として「二級自動車整備士」の国家資格の取得を通して、自動車工学や自動車整備に係る知識・技術を修得し、同時に技術者として必要不可欠な「意欲」「人間性」「能力」の三要件がバランスよく向上するよう教育を行うことを目的とする。

愛知工科大学自動車短期大学の教育目標

愛知工科大学自動車短期大学では、より複雑化、高度化する自動車技術社会において「二級自動車整備士の資格を有し、確かな基礎能力と幅広い教養を持ち、多様な業種に対応できる人材の養成」を行うため、次のことを目標に人材を養成します。

1. 国家資格である二級自動車整備士を養成します。
2. 本学独自の教育システムにより、「意欲」「人間性」「能力」の三要件がバランスよく向上するよう支援します。
3. 高度に進化を続けるカーテクノロジーをより深く探求し、高機能化、複雑化する自動車整備技術に対応できる人材を養成します。

以上のとおり、国家資格である二級自動車整備士資格の取得はもとより、「意欲」「人間性」「能力」の三要件がバランスよく向上し、高機能化、複雑化する自動車整備技術に対応できる人材育成を目的としている。

自動車工業学科の学則、教育研究上の目的及び教育目標を記載した学生便覧（提出-1）を学内では学生に配布し、学外へは公式ホームページ（提出-2）を通して公表している。また、本学の大学概要に関するホームページで教育研究上の目的（提出-6）及び教育目標（提出-7）を学外に表明し、学生募集要項（提出-3）を通して教育目標についても表明している。

教育目標に基づいた教育を実践し、卒業生を地域の企業へ送り出している。また、卒業生が社会の要請に応じているか否かについて卒業生を対象に意見聴取（備付-9）し確認している。さらに、卒業生の就職先の会社（本学企業後援会組織「愛技会」）から意見聴取を行い、分析した結果（備付-10）を教授会で定期的に点検し、時代の趨勢や社会情勢の変化によって見直しを行っている。

[区分 基準 I-B-2 学習成果（Student Learning Outcomes）を定めている。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 短期大学としての学習成果を建学の精神に基づき定めている。
- (2) 学科・専攻課程の学習成果を学科・専攻課程の教育目的・目標に基づき定めている。
- (3) 学習成果を学内外に表明している。
- (4) 学習成果を学校教育法の短期大学の規定に照らして、定期的に点検している。

<区分 基準 I-B-2 の現状>

建学の精神、教育研究上の目的及び教育目標に基づき、学生が習得すべき学力や資質を学習成果として定めている。本学における教育目標の骨子は、国家資格である二

級自動車整備士資格の取得はもとより、「意欲」「人間性」「能力」の三要件がバランスよく向上し、高機能化、複雑化する自動車整備技術に対応できる人材を育成することにある。学習成果はこの教育目標に則った学習を進めれば自然に獲得できるはずの成果であり、学生の学習成果は、成績評価、学修成果に関する授業評価アンケート・単位取得状況（提出-10）で査定するとともに、資格取得状況、就職率・進学率（備付-13）などでも行っている。特に、二級自動車整備士資格は自動車整備業界で仕事をする上において、必要不可欠なものであり、将来、整備主任者や検査員になるための前提となる資格である。このため国家資格である二級自動車整備士の資格取得の有無（備付-13）が最も重要な学習成果と言える。

本学での学習成果やカリキュラム内容、取得可能な資格、本学での学びで身につける事柄、卒業後どのような社会に貢献しているかを、学外には大学案内パンフレット（提出-8）、本学ホームページ（備付-11、13）やオープンキャンパス（備付-14）での説明で表明し、学内には、学期はじめのオリエンテーション、1年前期開講の「AUT自動車教育入門」（備付-15）で説明している。さらに、学生便覧（提出-1）にも掲載し、常に教職員や学生が意識できるようにしている。

本学での一連の学びが学習成果となるよう、学校教育法第108条の「深く専門の学芸を教授研究し、職業又は实际生活に必要な能力を育成することを主な目的とすることができる」の規定に照らし、また短期大学設置基準（第4章教育課程）に照らし合わせながら、成績評価や卒業判定においても、この学習成果を定期的に点検している。

[区分 基準 I -B-3 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針（三つの方針）を一体的に策定し、公表している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 三つの方針を関連付けて一体的に定めている。
- (2) 三つの方針を組織的議論を重ねて策定している。
- (3) 三つの方針を踏まえた教育活動を行っている。
- (4) 三つの方針を学内外に表明している。

<区分 基準 I -B-3 の現状>

本学の学生に獲得させたい学習成果とその学習成果によって養成したい短期大学士について纏めたものが建学の精神に基づいて策定したディプロマ・ポリシーである。ディプロマ・ポリシーは、卒業認定の条件であり、これだけのものを備えなければ、学位を授与できないことを示している。このポリシーは本学の定める学習成果に合致しており、自動車整備士としてだけでなく社会人として地域社会に貢献できる人材に成長することの重要性を求めている。これに則った学習成果が得られるように具体性を持たせた学習の方法などを、これに続くカリキュラム・ポリシーで定めている。さらにアドミッション・ポリシーでは、前述した二つの方針を受け入れられる学生の入学を求めており、三つの方針は関連付けて一体的に定めている。

三つの方針の根底にある建学の精神を持って、地域社会に貢献できる自動車整備士を養成するために何が必要かを様々な会議で常に議論を重ねて策定している。ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーについては、定期的に自己点検・評価委員会及び教務委員会で議論し、アドミッションポリシーについては、入試広報委員会において議論した内容を教授会で審議し、追加や改変の必要があれば速やかに対応している。平成30年度には、アドミッション・ポリシーについて見直しを行い、令和元年度より、新たな方針により入学生の受け入れを開始した。令和元年度には三つの方針についてさらに見直しを行い、学園建学の精神に則り、本学の教育目標に沿った人材育成をより強固なものにするため、三つの方針の各項目番号がリンクするように改訂した。

教育活動は三つの方針に基づいて行っており、カリキュラムは教務委員会などで常に点検・見直しを行い、改善を重ねてきた。令和元年度からカリキュラム・ポリシーの「グループ学習など能動的な授業によって学習意欲を喚起し、主体性及び協調性を養います」を発展させるために、必修科目として「AUT自動車教育入門」を新しく開講した。また、社会における教育改革の動向から選択科目であった「情報リテラシー」を必修科目に変更した。また、現状の科目を漫然と繰り返すことにならないよう、単位数や授業時間数を増減するなど、学習成果が得やすい教育内容となるように改善している。2年生の就職内定者を対象に夏休みを活用したインターンシップは、就職前に実地体験をさせる教育活動の一環である。

三つの方針は学生便覧（提出-1、6）、本学ホームページ（提出-2）により学内外に表明している。さらに、アドミッション・ポリシーについては学生募集要項（提出-3）にも記載し学外に表明している。

<テーマ 基準 I-B 教育の効果の課題>

機関（大学）レベルの学習成果は「学位授与数」、「就職率」、「進学率」、「満足度調査」、「自動車整備士合格率」として質的・量的評価が可能である。教育課程（学科）レベルについても「卒業率」、「成長ふりかえりシート」、「資格取得状況」で質的・量的評価が可能である。科目レベルについては「成績評価」、「授業評価アンケート」により質的・量的評価を行ってきた。ただし、「授業評価アンケート」は全科目を同一の質問内容で調査するため、科目レベルでの質的評価は可能だが、個人レベルでの学習成果を調査することはできない。学生個々の成長を測定する仕組みについては GPA や成績通知書で可能だが、いずれも量的評価であり、質的評価を測定する仕組みについては確立されておらず、測定が可能かも含めて検討する必要がある。

シラバスに記載されている各科目の“到達目標”は科目ごとに求める学力や資質が異なるため、内容も異なる。しかし、いずれの到達目標も“ディプロマ・ポリシー”と強く結びついている。当然、到達目標の水準に達することは、その科目の修得条件を満たすことと同義であるため、“成績評価”との関連も強い。これら3つは関連させて評価すべきだが、シラバスには一体的に記載されていない。この記載方法については、令和2年度から3つを連動させて記載することを計画している。

＜テーマ 基準 I-B 教育の効果の特記事項＞

全クラスに学級日誌（備付-16）があり、毎日その日の授業科目、授業内容、反省事項、所感などを当番制で記入させ、クラス担任が学生の意見等を汲み上げている。また、記入した学生の意見等に関して、クラス担任がコメントを記入すると同時に、必要に応じて対応している。

保護者からの意見を汲み上げる目的で、開学以来、毎年、本学及び地方 15 会場において「教育懇談会」（備付 17）を開催している。令和元年度に実施した地方 15 会場は、岐阜県（郡上市、高山市）、滋賀県（長浜市）、富山県（富山市）、沖縄県（石垣市、宮古島市、那覇市）、三重県（熊野市、伊勢市）、長野県（松本市、飯田市）、石川県（金沢市）、福井県（福井市）、静岡県（静岡市、浜松市）である。

懇談会における保護者との面談では、学業に関すること、進路に関すること、学生生活に関することなど保護者からの意見をお聞きしている。また、教員、学生、保護者による三者一体で、本学へ入学した学生の目的意識の再確認、やる気の誘発ばかりでなく、潜んでいる悩みごとの相談などもあり、学習及び学生生活支援に役立てている。教育懇談会への参加者は毎年概ね在籍者の 50～70%で推移している。過去 5 か年の参加状況を表 I-B-1 に示す。

表 I-B-1 教育懇談会参加状況表（人）

項目\年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
在 籍 数	328	337	314	272	239
本学会場参加数	196	195	181	128	112
地方会場参加数	40	38	24	14	13
参加者合計	236	233	205	142	125
参加率	72.0%	69.1%	65.3%	52.2%	52.3%

[テーマ 基準 I -C 内部質保証]

<根拠資料>

提出資料 11 愛知工科大学自動車短期大学 自己点検・評価委員会規程

備付資料 19 平成 28・29 年度自己点検・評価報告書

20 令和元・2 年度自己点検・評価報告書

22 a 愛知工科大学自動車短期大学と愛知産業大学工業高等学校との
連携協力に関する協定書

22 b 愛知工科大学自動車短期大学と愛知産業大学三河高等学校との
連携協力に関する協定書

23 広島国際学院大学自動車短期大学部との相互評価に関する報告書

24 2021 年度入学生に示す短期大学 3 ポリシー改訂について

25 教育・研究改善シート

27 2019(令和元)年度 学生における授業評価アンケート

[https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/
class_evaluation2019_jc.pdf](https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/class_evaluation2019_jc.pdf)

28 2019(令和元)年度 卒業生の満足度調査

[https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/
satisfaction_survey2019_jc.pdf](https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/satisfaction_survey2019_jc.pdf)

規程集 1 教育研究上の目的に関する規程

[区分 基準 I -C-1 自己点検・評価活動等の実施体制を確立し、内部質保証に取り組んでいる。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 自己点検・評価のための規程及び組織を整備している。
- (2) 日常的に自己点検・評価を行っている。
- (3) 定期的に自己点検・評価報告書等を公表している。
- (4) 自己点検・評価活動に全教職員が関与している。
- (5) 自己点検・評価活動に高等学校等の関係者の意見聴取を取り入れている。
- (6) 自己点検・評価の結果を改革・改善に活用している。

<区分 基準 I -C-1 の現状>

平成 16 年度からの認証評価制度の導入に伴い、常設委員会として自己点検・評価委員会が設置され、平成 17 年度に自己点検・評価委員会規程が制定されている。教務関係、学生生活関係、就職活動関係、資格取得指導関係などについてはそれぞれの事項について協議・検討する委員会があり、毎月 1 回の定例委員会が開催され日常的に点検・評価を行っている。また、下部組織として学科長がチームリーダーとなる推進チーム

を設置し、自己点検・評価報告書の作成及び資料収集に当たっている。自己点検・評価の活動報告は、短期大学評価企画 IR 室が各委員会や部署と連携して、2 か年をセットにして自己点検・評価報告書に纏め、学内教職員への配布や関係機関に送付すると共にホームページにも公開している。教育や就職に関する事項は協定している高等学校や後援会企業からの意見聴取を毎年度行い改善への助言を得るようにしている。

各委員会では、年度活動目標を策定し年度末には総括を行い、その振り返りを基に次年度計画を立てて遂行するという PDCA サイクルを確立して改革・改善に取り組んでおり、学内全教職員が各部署で関わる体制となっている。

[区分 基準 I-C-2 教育の質を保証している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学習成果を焦点とする査定（アセスメント）の手法を有している。
- (2) 査定の手法を定期的に点検している。
- (3) 教育の向上・充実のための PDCA サイクルを活用している。
- (4) 学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令の変更などを確認し、法令を遵守している。

<区分 基準 I-C-2 の現状>

本学は教育研究上の目的に関する規程に「学習成果の評価に関する方針(アセスメントポリシー)」を定めて、この方針に従った科目レベル、教育課程レベル、機関レベルの指標で査定している。科目レベルでは、科目ごとにディプロマポリシー(DP)に基づいた到達目標に向けて講義内容(シラバス)に明記している。授業最終回には「授業評価アンケート」を実施し、学生自身・教科担当者・授業全体についての評価結果に基づいて、教科担当者は講義内容や指導方法を見直し改善を行っている。平成27年度からは各自が授業改善のための「Plan (計画)」「Do (実施)」「Check (確認)」「Action (対策)」シート(備付-25)を作成し、教育・研究改善に取り組んでいる。教育課程レベルでは、進級率、単位取得状況、GPA値、資格取得状況、成長アンケート等から教育課程編成の改善に教務委員会が取り組んでいる。機関レベルでは、国家資格である二級自動車整備士資格の取得率(合格率)(表 I-C-1、2)を学修成果の最重要指標としており、卒業率、就職実績、進学実績、満足度調査結果なども学習成果としている。この結果を次年度以降の教育計画に反映するように教授会で検討している。各委員会において計画される事項は、常にPDCA活動に沿った取り組みをしている。教育の向上・充実のためのPDCAサイクルに関しては、毎年、開講科目、シラバス、授業方法等の見直しを行って質の保証に取り組んでいる。また、学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令の変更などを確認するとともに、文部科学省、国土交通省の定める関係法令を遵守し、その都度学内規程等の一部改正を行い、法令遵守とともに内部質保証に向けた取り組みをしている。

表 I -C-1 二級ガソリン自動車整備士 登録試験合格率

年度	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	備考
2017(平成29)	144	141	97.9	
2018(平成30)	134	132	98.5	
2019(令和元)	91	87	95.6	

表 I -C-2 二級ジーゼル自動車整備士 登録試験合格率

年度	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	備考
2017(平成 29)	148	140	94.6	
2018(平成 30)	133	129	97.0	
2019(令和元)	85	84	98.8	

<テーマ 基準 I -C 内部質保証の課題>

自己点検・評価活動には、学生アンケート、保護者アンケート、企業アンケートなどの情報を基に自己点検活動を展開し質保証に活用しているが、高等学校等の関係者からの意見聴取は協定校のみに限られているので、更なる情報収集の方法を策定する必要がある。

<テーマ 基準 I -C 内部質保証の特記事項>

本学では、定期的に広島国際学院大学自動車短期大学部と相互評価（備付-23）を行っている。相互評価を通して、教学を中心とした点検評価は、本学の改善事項が明確になり、教育の質の向上に繋がっている。しかし、自動車産業界は大きな転換期を迎えており、逐次改正される制度に対応した自動車整備教育内容を再構築する必要がある。このため各関係団体との連携強化を図り、必要な情報収集に努め、対応の迅速化を図れるよう取り組んでいる。

<基準 I 建学の精神と教育の効果の改善状況・改善計画>

(a) 前回の認証（第三者）評価を受けた際に自己点検・評価報告書に記述した行動計画の実施状況

○基準Ⅱ 教育課程と学生支援【テーマ A 教育課程】における向上・充実のための課題として、「シラバスに必要な項目が明示されているが、到達目標が具体性に欠ける科目もあり、より具体化し、学生にとって分かりやすく記述することが望まれる。」の指摘事項であった。

対応として、平成 29 年度からのシラバスから、すべての教科目に対して、到達目標を 3 項目で分かりやすく表記するよう改善している。また、私立大学等改革総合支援事業における「教育の質的転換」の基準要件も参考に、毎年シラバスの項目内容を点検して改善に努めている。

(b) 今回の自己点検・評価の課題についての改善計画

本学は中期目標・計画のもと、毎年各部署が自主的に振り返りを行い、年度計画に反映するよう努めているが、評価 IR 室と各委員会との情報共有が迅速に行える体制づくりを検討する。

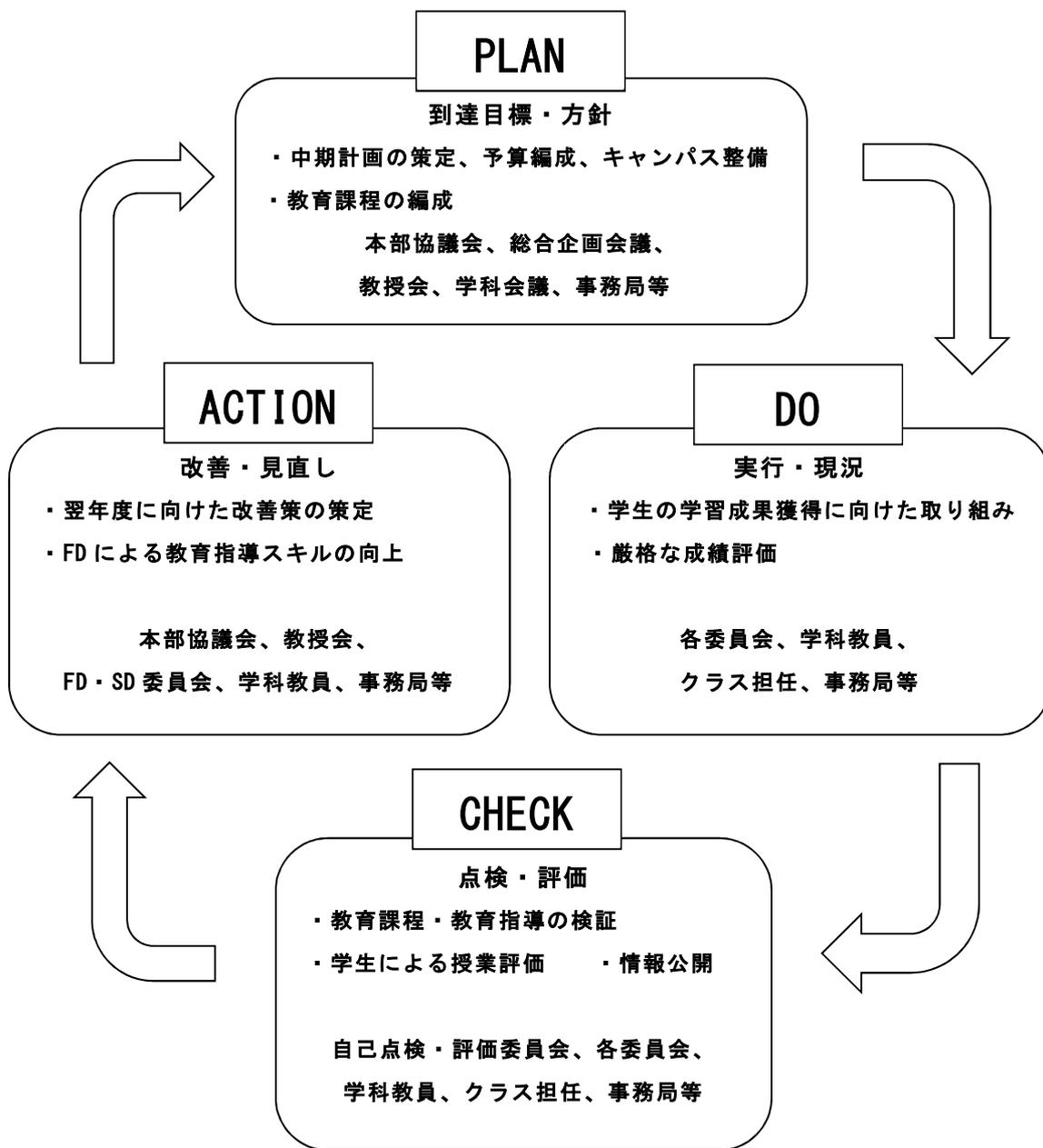


図 I-C-1 教育の向上・充実のための PDCA サイクル

[テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程]

<根拠資料>

- 提出資料
- 1 学生便覧 授業概要 2019
 - 3 2020 学生募集要項
 - 4 愛知工科大学自動車短期大学学則
 - 5 ウェブサイト 在学生へ（学生便覧・講義要項）
https://www.autjc.ac.jp/current_students/
 - 8 大学案内 2020
 - 10 ウェブサイト 情報公開（学習実態・学習時間、学習成果、単位取得の状況）
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/study_actual_conditions2019_jc.pdf
 - 12 2019年度 愛知工科大学自動車短期大学 学年歴
- 備付資料
- 11 ウェブサイト（成績の分布状況）
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/bunpu_jc2019.pdf
 - 12 ウェブサイト（学修実態・学修時間、学修成果、単位取得の状況）
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/study_actual_conditions2019_jc.pdf
 - 14 オープンキャンパスガイド（2020年度）
 - 27 2019(令和元)年度 学生における授業評価アンケート
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/class_evaluation2019_jc.pdf
 - 28 2019(令和元)年度 卒業生の満足度調査
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/satisfaction_survey2019_jc.pdf
 - 29 ルーブリック評価
 - 30 成長振り返りシート
 - 31 自動車メーカーによる講演、技術講習会
 - 32a. 職場体験実習報告【学生】
 - 32b. 職場体験実習報告【企業】
 - 33 ウェブサイト（教育情報の公表）
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2021/02/publish-education_jc2020-1.pdf
 - 34 卒業生の就労実態等に関する調査

[区分 基準Ⅱ-A-1 短期大学士の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を明確に示している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針は、それぞれの学習成果に対応している。
 - ① 学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針は、卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件を明確に示している。
- (2) 学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針を定めている。
- (3) 学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針は、社会的・国際的に通用性がある。
- (4) 学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針を定期的に点検している。

<区分 基準Ⅱ-A-1 の現状>

卒業認定・学位授与の方針は、学則第 26 条「卒業の要件」および第 27 条「卒業及び学位授与」を明示し、授業科目の履修に関する規程第 5 条「卒業要件単位数」の中で卒業に必要な必修科目 63 単位及び選択科目から 6 単位以上、合わせて 69 単位以上を修得した者に対して、短期大学士(自動車工学)の学位を授与している。また、成績評価においては、試験及び成績評価に関する規程第 13 条「成績区分」を明示している。情報の公開においては、本学ホームページ内の「在学生の方へ」の中に学則や規程を載せ、学位認定の基準を公開するとともに学生便覧(提出-2)に掲載し学生へ周知している。

学則第 27 条を具体化するためのディプロマ・ポリシーとして、次のような到達目標を掲げ卒業の認定および学位記を授与している。

愛知工科大学自動車短期大学の卒業に関する方針(ディプロマ・ポリシー)

愛知工科大学自動車短期大学は、次のような能力を身につけた学生に対して、卒業の認定及び学位記を授与します。

1. 自動車整備士として活躍するために必要な知識・技術を修得している。
2. 豊かな人間性を持ち、周囲から愛され、信頼される素養を身につけている。
3. 円滑な人間関係が築けるコミュニケーション能力を有し、社会人として地域社会に貢献できる。

「卒業認定・学位授与の方針」は、自動車整備士としての知識・技術の習得、社会人として地域社会に貢献できる人材の育成等であり、自動車産業界が要請する人材を育成する内容になっている。本学は、国土交通省の認定大学として、二級自動車整備士を養成する高等教育機関となっている。自動車産業に関する技術者を育成する中で、学生の主たる就職先は自動車整備業界であり、二級自動車整備士資格は、この業界での仕事において、必要不可欠なものとなっている。又、法的に自動車整備分解事業(指定整備工場、認証工場)での整備主任者や自動車検査員になるための前提資格となる。併

せて、豊かな人間性と正しい社会規範意識を持ち、周囲から信頼される教養を身につけることを目指しており、これらは社会的に通用性がある。これらの達成度を向上するために、2年次において、夏期休暇期間中に就職内定企業に職場体験実習（備付-32）を実施している。

カリキュラム編成に関しては教務委員会、二級自動車整備士資格取得に関しては資格取得指導委員会、就職・学生指導に関しては学生生活指導委員会が中心となり、「卒業認定・学位授与の方針」を定期的に評価し、教授会にて審議、確認を行っている。

[区分 基準Ⅱ-A-2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を明確に示している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学科・専攻課程の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針に対応している。
- (2) 学科・専攻課程の教育課程を、短期大学設置基準にのっとり体系的に編成している。
 - ① 学科・専攻課程の学習成果に対応した、授業科目を編成している。
 - ② 単位の実質化を図り、年間又は学期において履修できる単位数の上限を定める努力をしている。
 - ③ 成績評価は学習成果の獲得を短期大学設置基準等にのっとり判定している。
 - ④ シラバスに必要な項目（学習成果、授業内容、準備学習の内容、授業時間数、成績評価の方法・基準、教科書・参考書等）を明示している。
 - ⑤ 通信による教育を行う学科・専攻課程の場合には印刷教材等による授業（添削等による指導を含む）、放送授業（添削等による指導を含む）、面接授業又はメディアを利用して行う授業の実施を適切に行っている。
- (3) 学科・専攻課程の教員を、経歴・業績を基に、短期大学設置基準の教員の資格にのっとり適切に配置している。
- (4) 学科・専攻課程の教育課程の見直しを定期的に行っている。

<区分 基準Ⅱ-A-2 の現状>

学科の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に対応している。本学に2年以上在学しカリキュラムに基づいて教育を受け、基礎・教養科目及び専門科目の必修科目63単位、選択科目から6単位以上と合わせて69単位以上修得した者に対して、短期大学士（自動車工学）の学位を授与している。教育課程は卒業の要件、卒業及び学位授与を学則第26条及び第27条に明記し、学位授与の方針に対応している。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、豊かな人間性を育成するため「基礎・教養科目」を配当し、また自動車整備技術を習得するため「専門科目」を配当して短期大学設置基準に則り、体系的に編成している。授業科目の基本構成を表Ⅱ-A-1に、その教育課程一覧を表Ⅱ-A-2に示す。

愛知工科大学自動車短期大学教育課程の編成及び実施の方針
(カリキュラム・ポリシー)

ディプロマ・ポリシーに掲げる到達目標を実現するために、次のようなカリキュラム（教育課程）を編成しています。

1. 基礎教養科目を通して基礎学力を築き、セミナーなどを通してコミュニケーション能力と社会性を身につけ、豊かな人間性を育成します。
2. 自動車技術者に必要な科目の学習を通して、自動車工学やジオ同社整備に関する知識・技術の習得を支援します。これらの学習成果として、二級ガソリン及び二級ジーゼル自動車整備士の受験資格を得ることができます。
3. 多彩な選択科目を用意し、最新のカーエレクトロニクスに対応でき得る知識・技術の習得を支援します。
4. グループ学習など能動的な授業によって学習意欲を喚起し、主体性及び協調性を養います。

表 II-A-1 授業科目の基本構成

基礎・教養科目	基礎・教養科目では、人文、社会、自然科学などの科目を学習し、人間形成に活かす。また、科学技術英語を必要とする取扱い説明書、インターネット英語などに活用できるよう基礎的な英語を学習する。さらに、スポーツ科学、健康及び現代社会の健康問題をさまざまな事例を通して学習する。
専門科目	専門科目は、自動車工学・自動車整備に関係する分野・領域及びそれらと深く関係する工学分野を学習する。

更に 2019（令和元）年度から、より一層成果を出すために「AUT 自動車教育入門」（備付 7）を開講している。

これは、大学生活を始めるに当たり、仲間を作りグループワークを通じてコミュニケーション能力や協調性を育むと共に自動車に対する自分の夢を再確認することにより学習意欲を喚起し、意欲と人間性を高めるための契機としている。

また、専門科目の大半は、二級自動車整備士登録試験の受験資格に関係しており、国土交通省の定める「自動車整備士養成施設の指定等の基準（以下「指定基準」という）に準拠した二級自動車整備士の養成に関する科目（以下「認定科目」という）になっており、同省の定める規定に基づいた自動車整備技術修得のための科目編成になっている。

表Ⅱ-A-2 自動車工業学科 教育課程一覧（令和元年度）

区分	科目 コード	授業科目	授業形態				単 位 数	履修スケジュール					
			講 義	演 習	実 習	実 技		1年		2年			
								前 期	後 期	前 期	後 期		
基礎・ 教養科目	A0100157	必修	AUT自動車教育入門	○				1	0.5				
	A0601104	必修	数学Ⅰ	○				2	1				
	A0200252	必修	キャリアデザイン	○				2		1			
	A0501403	必修	法学	○				2					1
	A0605253	必修	情報リテラシー	○				2		1			
	A0502247	選択	文章表現法	○				2		1			
	A0603206	選択	物理学	○				2		1			
	A0602305	選択	数学Ⅱ	○				2				1	
	A0501346	選択	ファイナンシャル・マネジメント	○				2				1	
	A0502150	選択	コミュニケーション講座	○				1	0.5				
	A0502454	選択	心と体の健康	○				2					1
	A0401107	選択	英語Ⅰ	○				2	1				
	A0401208	選択	英語Ⅱ	○				2		1			
	A0300110	必修(美)	体育実技				○	1	1				
	A0300209	選択	保健体育講義	○				2		1			
専門科目	A1106111	必修*	工学基礎	○				2	1				
	A1107112	必修*	自動車工学概論	○				2	1				
	A1208116	必修*	ガソリン・エンジン工学	○				2	1				
	A1207118	必修*	自動車シャシⅠ	○				2	1				
	A1109124	必修*	自動車電気基礎	○				2	1				
	A1209125	必修*	自動車電装Ⅰ	○				2	1				
	A1104128	必修*	機械製図	○			○	1	1				
	A1208217	必修*	ジーゼル・エンジン工学	○				2		1			
	A1207219	必修*	自動車シャシⅡ	○				2		1			
	A1209226	必修*	自動車電装Ⅱ	○				2		1			
	A1210320	必修*	ガソリン・エンジン整備	○				2				1	
	A1207322	必修*	シャシ整備Ⅰ	○				2				1	
	A1204332	必修*	自動車材料	○				2				1	
	A1211333	必修*	自動車法規	○				2				1	
	A1210334	必修*	故障探究法	○				2				1	
	A1208421	必修*	ジーゼル・エンジン整備	○				2					1
	A1207423	必修*	シャシ整備Ⅱ	○				2					1
	A1211427	必修*	自動車検査	○				2					1
	A1305136	必修*(美)	自動車工学実習Ⅰ				○	5	8				
	A1305237	必修*(美)	自動車工学実習Ⅱ				○	4		8			
	A1305348	必修*(美)	自動車工学実習Ⅲ				○	5			8		
	A1305449	必修*(美)	自動車工学実習Ⅳ				○	4					8
	A1305231	選択	CADシステム	○			○	1		1			
	A1212256	選択	リテールマーケティング	○				2		1			
	A1210335	選択	カーエレクトロニクス	○				2				1	
	A1203315	選択	熱力学	○				2				1	
	A1205344	選択	自動車整備士対策講座		○			1				1	
	A1202413	選択	流体工学	○				2					1
	A1201414	選択	材料力学	○				2					1
	A1204430	選択	機械工作法	○				2					1
A1210455	選択	EV・HV・PHV	○				2					1	
A1305441	選択	OMS		○			1					2	
週あたりコマ数合計								19	19	18	19		

教育科目の成績評価については、シラバスで明確にその方法を示し、教育の質の保証に向けて厳格に適用している。各科目の成績から学習状況を総合的に示す学生の成

績評価値の1つとして平成27年度からGPA (Grade Point Average) を導入している。GPAは、各科目の成績評価と履修登録の総単位数を基に算出するもので、不合格となった科目や途中で履修放棄した科目も評価対象となる。したがって、安易な履修登録をすると、不合格や履修放棄によりGPAが低下する。これにより、計画的な履修登録を行い、履修登録科目数の自主規制を促し、成績不振の学生をいち早く発見及び指導することに取り組んでいる。さらに、奨学金候補者及び学生表彰の選考における参考データとして利用できるようにしている。

GPAは履修登録した科目毎の成績に対して表Ⅱ-A-3に定めるGP (Grade Point) を基に次の式により算出している。

$$GPA = \frac{(\text{履修登録した授業科目の単位数} \times \text{当該授業科目のGP})\text{の総和}}{\text{履修登録した授業科目の単位数の合計}}$$

表Ⅱ-A-3 評語に対するGP (Grade Point)

合否区分	素点	評語	GP
合格	100点～90点	秀	4
	89点～80点	優	3
	79点～70点	良	2
	69点～60点	可	1
不合格	59点以下	不可	0
	—	欠超	0
認定	—	認定	対象外

本学では、1つの授業科目に対する教育効果を向上するための予習・復習を含めた学習の確保を考慮し、履修登録できる単位数の上限を設けるGPA制を導入し、年間48単位と定めている。ただしGPAの導入に伴い、前期に登録した全ての履修科目の単位数を修得し、かつ履修登録した科目の平均点が80点以上あるいはGPAが2.5ポイント以上ある学生については、後期において上限単位数を超えて履修科目の登録を認めることとしている。

成績評価は、「試験及び成績評価に関する規程」に則って行われている。第13条では、成績の段階（秀、優、良、可、不可）の基準を規定し、「学生便覧」（シラバス）に明記している。

本学では、自動車工学や自動車整備に関する知識・技術を修得し、同時に技術者として不可欠な（意欲、人間性、能力）の三要件がバランスよく向上するよう教育を行うことを目的としているため、試験の成績だけでなく、受講態度、レポート、ワークシート等での総合評価を行っている。

シラバスには授業の概要、到達目標、授業内容、授業を受けるにあたって、教科書・参考書、成績評価方法、受講者への指示／メッセージを明示して学習成果があげられるよう配慮している。本学は国土交通省の認定大学であり、専門科目のうち特に二級認定科目の担当者については指定基準に適合した学科指導員、実習指導員を配置する

必要があるため、表Ⅱ-A-4に示すように専門科目の専任率は高くなっている。実務経験を持っている教員であることが分かるようにシラバスには教員名に★マークを記載している。従って、担当科目については、教員の資格・経歴・業績を基にして、短期大学設置基準に則り適切に配置している。

表Ⅱ-A-4 専任教員の配置

年度	年次	基礎・教養科目			専門科目			科目全体			備考
		科目数	専任教員数	専任教員率%	科目数	専任教員数	専任教員率%	科目数	専任教員数	専任教員率%	
平成29	1	9	3	33	16	14.5	91	25	17.5	70	
	2	4	3	75	19	17.8	94	23	20.8	90	
	合計	13	6	46	35	32.3	92	48	38.3	80	
平成30	1	10	2.7	27	14	14	100	24	16.7	70	
	2	4	3	75	18	18	100	22	21	95	
	合計	14	5.7	41	32	32	100	46	37.7	82	
令和元	1	11	4.5	41	14	13.7	98	25	18.2	73	
	2	4	3	75	18	18	100	22	21	95	
	合計	15	7.5	50	32	31.7	99	47	39.2	83	

注) 平成29年度専門科目の専任教員1年次の専任教員数14.5は機械製図が専任2名、兼任1名、自動車シャシⅡが専任1名、兼任1名、パソコン演習Ⅰが専任2名、兼任1名、CADシステムが専任2名、兼任1名であるため0.5の端数が生じている。同様に、専門科目の専任教員2年次の専任教員数17.8は自動車工学実習Ⅲが専任12名、兼任1名、自動車工学実習Ⅳが専任12名、兼任1名であるため0.8の端数が生じている。

平成30年度基礎・教養科目の専任教員1年次の専任教員数2.7は情報リテラシーが専任2名、兼任1名、であるため0.7の端数が生じている。

令和元年度基礎・教養科目の専任教員1年次の専任教員数4.5は情報リテラシーが専任1名、兼任1名、であるため0.5の端数が生じている。同様に、専門科目13.7はCADシステムが専任2名、兼任1名、であるため0.7の端数が生じている。

教育課程の見直しは、教務委員会が中心となり、学生生活指導委員会、資格取得指導委員会、FD・SD委員会、各担任等からの意見を取り入れ、定期的に教育課程の見直し、対応策の審議が行われている。改訂案件は教授会において審議され、学長の承認を経て遅滞なく履行されている。

[区分 基準Ⅱ-A-3 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養を培うよう編成している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

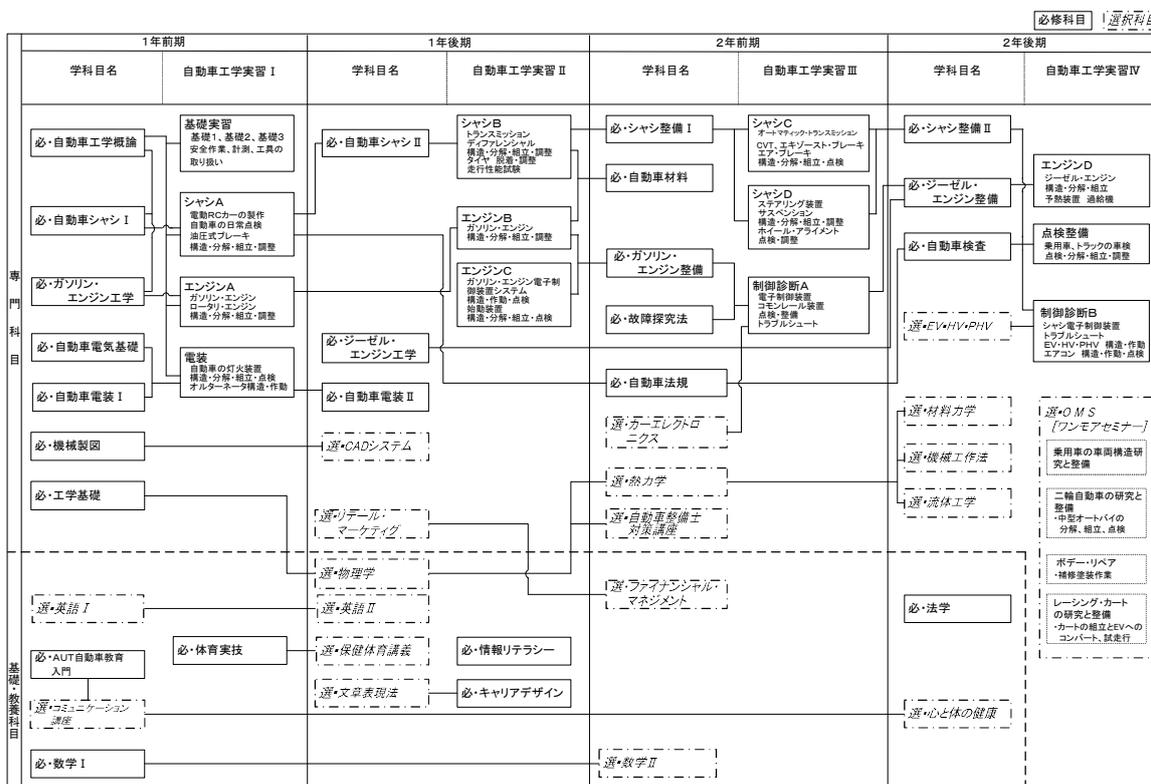
- (1) 教養教育の内容と実施体制が確立している。
- (2) 教養教育と専門教育との関連が明確である。
- (3) 教養教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。

<区分 基準Ⅱ-A-3の現状>

本学の教育目標は、より複雑化、高度化する自動車技術会社において「二級自動車整備士の資格を有し、確かな基礎能力と幅広い教養を持ち、多様な業種に対応できる人材の育成」を行うため、次のことを目標に人材を養成しますと規定している。

1. 国家資格である二級整備士を養成します。
2. 本学独自の教育システムにより、「意欲」「人間性」「能力」の三要件がバランスよく向上するように支援します。
3. 高度に進化を続けるカーテクノロジーをより深く探究し、高機能化、複雑化する自動車整備技術に対応できる人材を養成します。

本学では、豊かな人間性を育成する目的で、「人文、社会、自然科学、外国語、保健体育などの科目群から構成される「基礎・教養科目」を編成し、これらの科目を通して学習に必要な基礎学力の習得ができるようにしている。教養教育と専門教育との関連については各科目間の関連性を意識して学べるように、学生便覧において学年別・科目別履修系統図（図Ⅱ-A-1）を掲載している。



図Ⅱ-A-1 自動車工業学科 学年別・科目別履修系統図

また、2019（令和元）年度からは新入生が大学生活をスムーズに始められるよう、仲間を作りグループワークを通してコミュニケーション能力や協調性などを育み、自動車に対する自分の夢を再確認することができる「AUT自動車教育入門」を1年前期に必修科目として開講している。また、情報リテラシーは、パソコンが操作できるだけでなく、それに付随した情報モラルの知識や常識を身に付けることを目標として、選択科目から必修科目に変更している。

キャリア開発科目の「キャリアデザイン」では、実社会での整備職経験豊かな教員が中心（担任）になり、キャリアセンター職員が支援することで、自己分析・企業研究等を通して、働くことの意義を理解させている。

コミュニケーション講座や文書表現法などの体験型ワークを通して、他との対話や必要な国語力も身につけさせている。その他、機械工作の基礎となる数学や物理学なども配置している。教育課程の見直しは、授業評価アンケート（備付-27）を各学期の最終講義において、すべての科目に対して実施し、その集計結果を基に適宜内容を見直し授業改善に活用している。

区分 基準Ⅱ-A-4 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、職業又は實際生活に必要な能力を育成するよう編成し、職業教育を実施している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学科・専攻課程の専門教育と教養教育を主体とする職業への接続を図る職業教育の実施体制が明確である。
- (2) 職業教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。

＜区分 基準Ⅱ-A-4 の現状＞

本学は、国土交通省の定めた認定大学として「二級自動車整備士」の国家資格の取得を通して、自動車工学や自動車整備に係る知識・技術を修得し、同時に技術者として必要不可欠な「意欲」「人間性」「能力」の三要素がバランスよく向上するよう教育を行うことを目的としている。自動車関連の専門科目はもとより、「意欲」「人間性」「能力」の教育として、初年度教育として「AUT 自動車教育入門」を始めとする基礎・教養科目を配当している。

将来大半の学生が関係する自動車産業界についての就職支援教育は「キャリアデザイン」、「文書表現法」、「コミュニケーション講座」等の授業が担っている。キャリアデザインの授業内では、自動車販売会社による「社会人としての在り方」や「CS（お客様満足度）の重要性」を学び、ビジネスマナー講座を通して、社会人になるためのマナーを身につけさせている。また、キャリアセンター所属の職員及び担任が中心となり、入学直後に実施するフレッシュマンセミナーをはじめ、自動車メーカーによる講演や技術講習会（備付-31）、さらには内定先での職場体験を実施して自動車産業界との連携教育を行うことで、職業観が熟成できるようにしている。

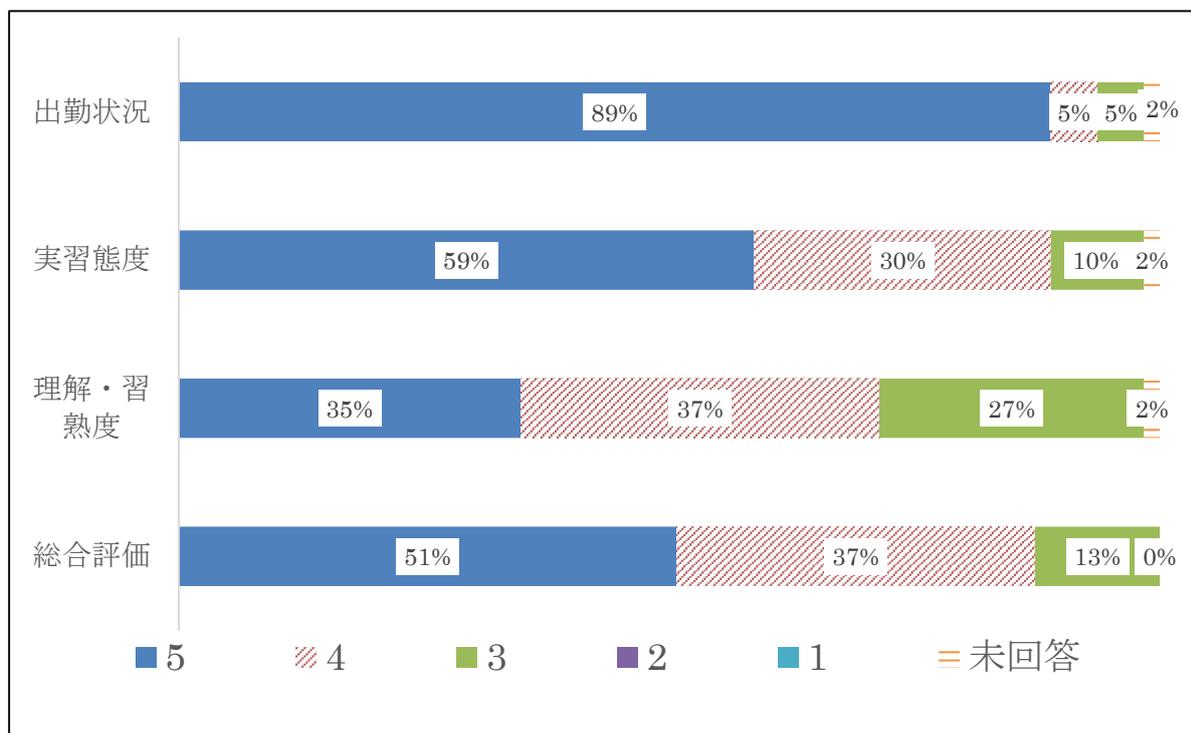
職業教育の効果の測定・評価は、内定先での「職場体験の学生評価」を企業によるアンケート調査（備付-32b）で行っている。アンケート結果については表Ⅱ-A-5と、結果をグラフ（図Ⅱ-A-2）に表した通りで、企業からの評価は好結果を得られている。一つには、内定先での職場体験ということもあり、企業側も人材を育てようとの思いもあると考えられる。企業サイドの指摘事項、アドバイス等の情報を基に、学生生活指導委員会及びキャリアセンターが適宜内容を見直し改善に取り組み来年度以降の活動に生かしている。

表Ⅱ-A-5 令和元年度職場体験の企業によるアンケート結果

	評 価 (5 段階)					未回答
	5	4	3	2	1	
	良い	普通	悪い			
出勤状況	52	4	6	0	0	23
実習態度	38	18	6	0	0	23
理解度・習熟度	26	20	16	0	0	23
総合評価	31	23	8	0	0	23

*未回答には、未返信を含む

職場体験実習受入社数 30社(63人) 評価返信社数 30社(62人) 返信率 100%



図Ⅱ-A-2 令和元年度職場体験実習（企業評価）

[区分 基準Ⅱ-A-5 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を明確に示している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 入学者受入れの方針は学習成果に対応している。
- (2) 学生募集要項に入学者受入れの方針を明確に示している。
- (3) 入学者受入れの方針は、入学前の学習成果の把握・評価を明確に示している。

- (4) 入学者選抜の方法（推薦、一般、AO選抜等）は、入学者受入れの方針に対応している。
- (5) 高大接続の観点により、多様な選抜についてそれぞれの選考基準を設定して、公正かつ適正に実施している。
- (6) 授業料、その他入学に必要な経費を明示している。
- (7) アドミッション・オフィス等を整備している。
- (8) 受験の問い合わせなどに対して適切に対応している。
- (9) 入学者受入れの方針を高等学校関係者の意見も聴取して定期的に点検している。

＜区分 基準Ⅱ-A-5の現状＞

入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）は、教育目標及び卒業認定、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定める人材を育成するために必要とされる高等学校等までに身につけておくべき学力、態度、意欲等を示しており、学習成果に対応している。学生募集要項（提出3）には、アドミッション・ポリシーのほか、建学の精神、教育指針、教育目標等を明確に示している。また、オープンキャンパス（備付-14）、進学相談会、高校訪問等を通じて、受験生、保護者、高校教員に説明を行い、ホームページ等でその方針を明確に示している。

入学者受け入れ方針については、次のように示し、入学前の能力、基礎学力及び向上心の把握・評価は、学生募集要項（提出-3）に沿った入学試験によって行われている。

愛知工科大学自動車短期大学の入学者受け入れ方針 （アドミッション・ポリシー）

愛知工科大学自動車短期大学は、自動車に興味を持ち、これからの自動車産業界をリードする意欲と情熱を燃やし続けることのできるような人の入学を求めています。

1. 自動車整備に興味があり、自動車整備士を目指す人
2. 自動車、自動二輪車などの開発技術に興味を持つ人
3. 自動車産業において求められる知識・技術を習得したい人
4. カー・エンジニアとして社会への貢献を目指す人
5. 自動車に関する各種の資格取得を目指す人
6. 愛知工科大学自動車短期大学での修学に備え、入学まで継続して勉学する意欲のある人（入学前に勉学する範囲は、本学の一般入学試験における出題科目・範囲が望ましい。）

入学者選抜方法は、各高校から出された調査書、推薦書、志望理由書、面接、筆記試験等によって総合的に選考している。本学のすべての入学選抜には、受験生との面接を重要視しており、面接時には、数学の口頭試問を課すことで、基礎学力も確認してい

る。また、いずれの入学試験においても、入学者受入れ方針に基づいて、適性がある入学者の選抜を行っている。

各入学試験の選抜方法は、次のとおりである。

・学校推薦型選抜試験（指定校）は、入学を志願する者の適性をはかるため、基準とする評定平均値に該当し、さらに出身学校長の推薦があった者の中から、調査書、面接試験を通して総合的に選考している。

・学校推薦型選抜試験（一般・専門高校・女子特別）は、学修に強い意欲を持つ者を判定するため、調査書、推薦書、志望理由書、面接試験を通して総合的に選考している。

・総合型選抜試験（自己推薦）は、自動車工学に対する向学心を持つ者を判定するため、調査書、自己推薦書、面接試験を通して総合的に選考している。

・一般選抜試験（一般入学・大学入試センター利用）は、入学者受け入れ方針に基づいた基礎学力と自動車に強い関心を持つ者を選考するため、調査書、学力試験、面接試験を通して総合的に選考している。

・社会人選抜試験は、多様な経験を持つ者の中で、自動車工学に対する向学心を持つ者を判定するため、調査書、自己推薦書、面接試験を通して総合的に選考している。

・総合型選抜試験（A0）は、受験生が本学での講義・実習とレポート作成、面接試験を通して、学力だけでは伝わらない自動車に対する熱意などを含めて多面的に選考している。

・外国人留学生入学試験は、面接試験（日本語による個人面接）、学力試験を行い、日本語能力や自動車に対する熱意などを含めて多面的に選考している。

以上のように入学者選抜はいずれの試験も公正かつ適正に実施している。各選抜試験の後には、速やかに入試判定会議を開催し、合否判定を行い学長が合否を決定している。授業料、その他入学に必要な経費は、入学案内、学生募集要項、ホームページに明示している。受験に対する問い合わせに対しては、入試広報課が対応している。また、入試広報課が中心となって、年2回（6月、9月）高校訪問を実施している。その際、近況、高等学校からの意見も聴取し報告書を作成している。これらの情報は学内のイントラを通して教職員が情報共有できるようになっている。

[区分 基準Ⅱ-A-6 短期大学及び学科・専攻課程の学習成果は明確である。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学習成果に具体性がある。
- (2) 学習成果は一定期間内で獲得可能である。
- (3) 学習成果は測定可能である。

<区分 基準Ⅱ-A-6 の現状>

本学の学習成果の評価については、3ポリシーに基づいて、測定評価しており、具体性を持っている。

科目レベルの学習成果は、科目ごとに学習到達目標を定めてシラバスに明記してい

る。また、各到達目標に応じて成績評価方法を示すことで、学生が具体的に取るようにしている。学習成果としては、個々の成績評価や授業アンケート等である。教育課程レベルの学習成果は、各学年での単位取得状況、GPA 値、進級率等で測定可能である。機関レベルの学習成果は、卒業までの単位取得状況、資格取得状況、卒業率、就職率、進学率、満足度調査等で測定可能であるが、特に自動車整備士資格の取得率は最重要指標となるものである。

これらの学習成果は、各委員会を通じて評価され、最終的に教授会に報告される。年度毎の成果はエビデンスを基に評価企画 IR 室でまとめられている。

[区分 基準Ⅱ-A-7 学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) GPA 分布、単位取得率、学位取得率、資格試験や国家試験の合格率、学生の業績の集積（ポートフォリオ）、ルーブリック分布などを活用している。
- (2) 学生調査や学生による自己評価、同窓生・雇用者への調査、インターンシップや留学などへの参加率、大学編入学率、在籍率、卒業率、就職率などを活用している。
- (3) 学習成果を量的・質的データに基づき評価し、公表している。

<区分 基準Ⅱ-A-7 の現状>

学習成果の獲得状況を量的・質的データの測定は、学習成果の評価の方針（アセスメントポリシー）に定めている。科目レベルでは、単位取得状況や GPA で、教育課程レベルでは、単位取得状況、進級率、資格取得状況などで、機関レベルは、卒業率、就職率、進学率、自動車整備士合格率を量的データとして査定している。

具体的には GPA については、学期末に学生に配布される成績通知書に表記され、学生がどれくらいのレベルに到達しているかを把握できるようにしている。また、卒業に必要な単位数と取得単位数や出欠状況を併記することで、単位取得率、学位取得率を把握できるようにしている。

保護者にも学生と同じ成績通知書を送付して、進捗状況を確認してもらっている。

また、学習状況が次のいずれかの者には、学科長から警告を与え、改善を促している。

- | | |
|---|---------------------------------------|
| ア | 各学年各期終了時の修得単位 |
| | 1 年前期終了時 必修科目単位未修得 |
| | 1 年後期終了時 必修科目単位未修得及び選択科目の修得単位数 2 単位未満 |
| | 2 年前期終了時 必修科目単位未修得及び選択科目の卒業要件単位未修得 |
| イ | 前期の GPA が学年の下位 4 分の 1 に属する場合 |
| ウ | 前期の出席率が 8 割以下である場合 |

就職に関わる学校推薦、卒業時の表彰に関わる選考過程でも GPA 値を活用している。

単位取得状況について、HP の学習実態・学習時間、学習成果、単位取得の状況（備付-12）で公表しており、「成績評価の分布」「学年別 単位取得数合計」「取得単位の状況」などが客観的に見ることができる。また、学生には、「授業アンケート」を全科目対象に、前期 1 回・後期 1 回の年 2 回実施している。各学期ごと「授業評価」に関するアンケート集計（備付-27a）し、「学生自身の評価」No.1～5、「担当者の評価」No.6～10、「授業全体の評価」No.11～15 をもとにグラフ化している。集計結果（備付 27b）を通して授業評価を客観的かつ効率よく知ることができ、回答用紙の自由記述欄からは個々の学生の授業に対する意見や感想も分かり、次年度以降の授業改善のために活用している。

[区分 基準Ⅱ-A-8 学生の卒業後評価への取り組みを行っている。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

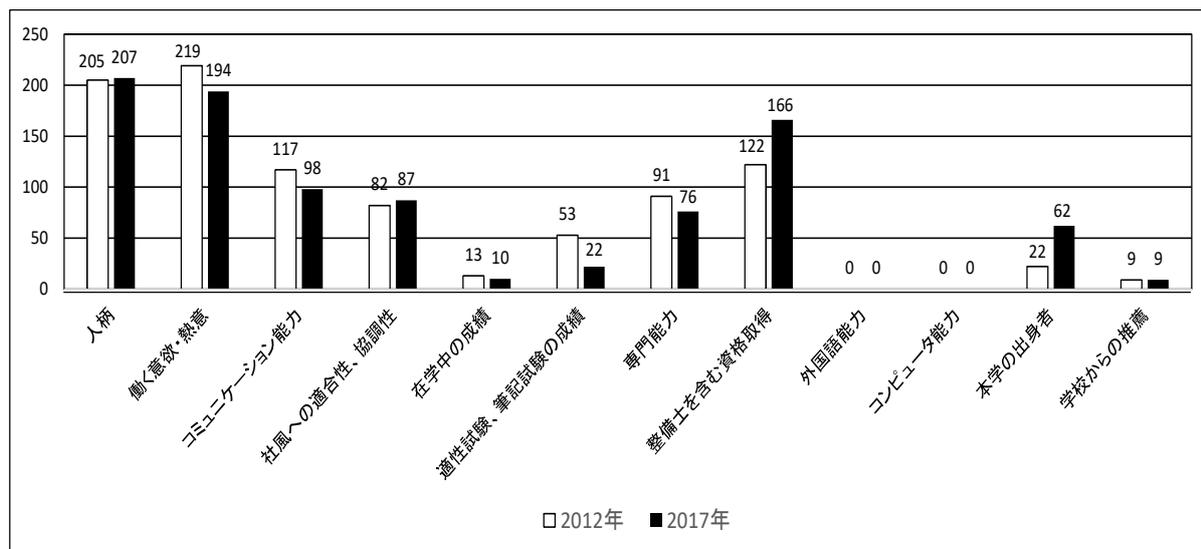
- (1) 卒業生の進路先からの評価を聴取している。
- (2) 聴取した結果を学習成果の点検に活用している。

<区分 基準Ⅱ-A-8 の現状>

2012（平成 24）年度から 2016（平成 28）年度までの 5 年間に採用があった企業 125 社を対象に、「卒業生の就労実態等に関する調査」（備付-34）を 2017（平成 27）年 4 月に実施し、67 社（回収率 54%）から回答を得ている。この調査は 5 年ごとに行っているものであり、前は 2007 年度から 2011 年度の 5 年間の採用企業に対して行い、今回は 2017 年度から 2021 年度の 5 年間の採用企業に対し、2022 年 4 月に行う予定である。本学の学生を採用した理由について、上位 5 つを選び「1 位から 5 位まで」順位が付記されたものに対して、高い順位から「5 点・4 点・3 点・2 点・1 点」のポイントを与えて集計している。その結果を表Ⅱ-A-6 に示す。

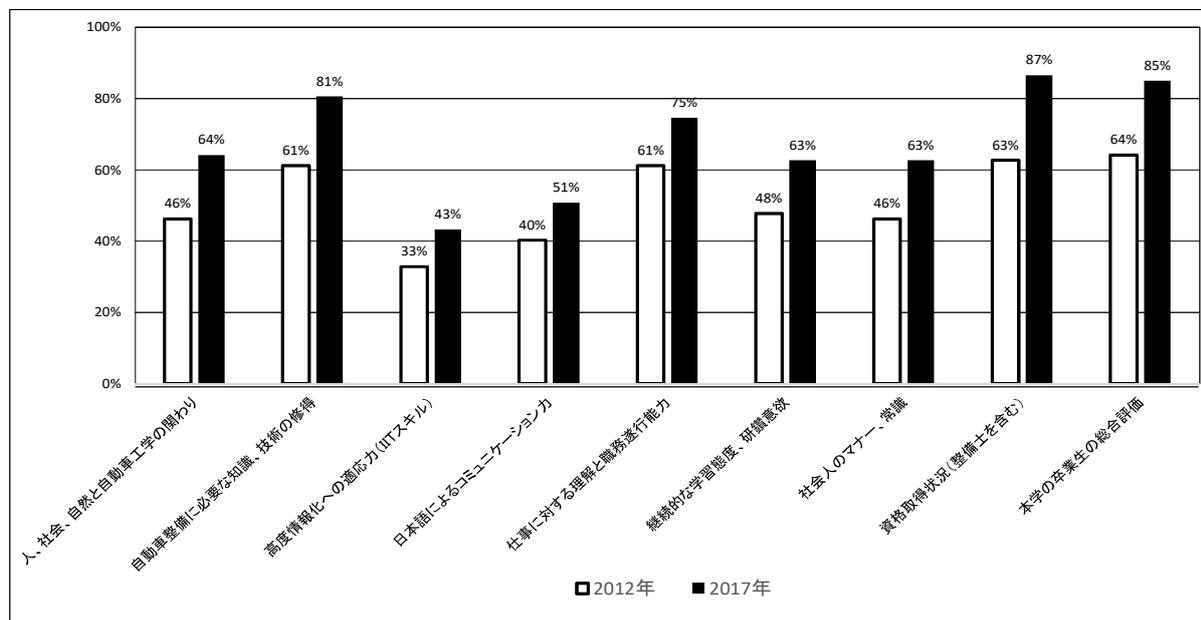
これより、「人柄」、「働く意欲・熱意」、「資格取得」が上位を占め、「適性・筆記試験の成績」「在学中の成績」はウエイトが低く、面接による人物重視の採用試験が行われていることが伺える。「本学の出身者」であることは前回調査より増えており本学のブランド力が年々高まっていることが想像できる。

表 II-A-6 学生を採用した理由



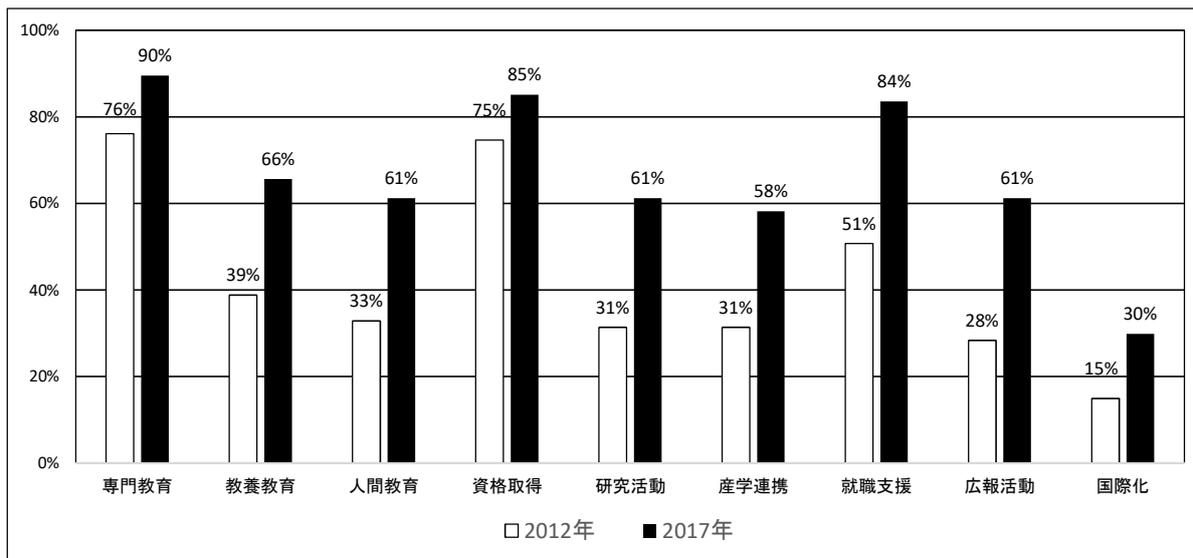
また、本学卒業生に対する満足度の評価については、「満足」「どちらかといえば満足」「普通」「どちらかといえば不満」「不満」の5段階で評価してもらい、「満足」及び「どちらかといえば満足」の合計を比率で表した。その結果を表 II-A-7 に示す。すべての項目において前回調査を上回り、「総合評価」は85%を得た。「資格取得」「整備知識・技術の修得」「仕事理解と職務遂行能力」で高得点が得られている。一方で、「高度情報化への適応力」「日本語によるコミュニケーション力」「社会人のマナー・常識」「継続的な学習態度、研鑽意欲」が比較的低い。これを受けて1年生入学当初からの導入教育を行う必要があると考え「社会人のマナー・常識」「継続的な学習態度、研鑽意欲」の涵養等を目的とし、2019年度より「AUT自動車教育入門」を導入している。また、「高度情報化への適応力」については2019年度より「情報リテラシー」を選択科目から必修科目とし、「日本語によるコミュニケーション力」の育成には選択科目である「文章表現法」を積極的に取得するように勧めている。

表 II-A-7 卒業生に対する満足度



さらに、本学の教育活動・学生支援に抱くイメージを、「優れている」「どちらかといえば優れている」「普通」「どちらかといえば劣る」「劣る」の5段階で評価してもらい、「優れている」及び「どちらかといえば優れている」の合計を比率で表した。その結果を表Ⅱ-A-8に示す。すべての項目において前回調査を上回った。「専門教育」「資格取得」「就職支援」で評価が高い。近年の留学生の入学など「国際化」については前回より向上したが依然低い状況である。

表Ⅱ-A-8 教育活動・学生支援に抱くイメージ



また、採用者側ではなく、卒業生による本学在学中の学習内容や学生支援に対する評価についての調査は、毎年行われる学内企業説明会に先輩社員として参加していただける卒業生には聞き取り調査を行い、また、キャリアデザインの授業内にて企画される「先輩社員との座談会」に参加いただいた卒業生に記入式のアンケートを実施している（備付-34）。また、座談会の内容も、社会人としての在り方や学生生活の上手な過ごし方など、在学生に対し非常に有益なアドバイスとなっている。これら聴取した結果は、改善に活用している。

[テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援]

<根拠資料>

- 提出資料
- 1 学生便覧 授業概要 2019
 - 3 2020 学生募集要項
 - 5 ウェブサイト 在学生へ (学生便覧・講義要項)
https://www.autjc.ac.jp/current_students/
 - 7 ウェブサイト 大学理念 (教育目標)
<https://www.autjc.ac.jp/outline/spirit/>
 - 8 大学案内 2020
 - 12 大学案内 2019
 - 13 2019 学生募集要項
 - 14 2019 学校推薦型選抜試験 (指定校) 学生募集要項
 - 15 2019 外国人留学生選抜試験学生募集要項
 - 3 2020 学生募集要項
 - 16 2020 学校推薦型選抜試験 (指定校) 学生募集要項
 - 17 2020 外国人留学生選抜試験学生募集要項
- 備付資料
- 9 ウェブサイト (卒業生からの意見聴取及びその対応)
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/obog_iken2019_jc.pdf
 - 27 2019(令和元)年度 学生における授業評価アンケート
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/class_evaluation2019_jc.pdf
 - 28 2019(令和元)年度 卒業生の満足度調査
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/satisfaction_survey2019_jc.pdf
 - 35 卒業生の就業等に関する状況調査について
 - 36 入学手続き案内
 - 37 2020 年度入学生 特別指導問題
 - 38 2019 年度 オリエンテーション/ガイダンス実施要領
 - 39 学籍簿様式
 - 40 2017 (平成 29) 年度 自動車工業学科進路一覧
 - 41 2018 (平成 30) 年度 自動車工業学科進路一覧
 - 42 2019 (令和 元) 年度 自動車工業学科進路一覧
 - 43 GPA 制度について
https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/12/jc_gpa.pdf
 - 44 成績の分布状況
<https://www.autjc.ac.jp/cms/wp-content>

- /uploads/2020/12/bunpu_jc2019.pdf
- 45 科目履修生募集要項（社会人受け入れ）
 - 46 研修旅行
 - 47 愛知工科大学 愛知工科大学自動車短期大学紹介リーフレット
英語版、中国語版、韓国語版、ベトナム語版
 - 48 基礎数学
 - 49 新編 工学基礎
 - 50 各教員による推薦図書を紹介
 - 51 F D活動
 - 52 S D活動
 - 53 卒業式における保護者アンケート
 - 54 短期大学 保護者アンケートによる満足度調査結果
 - 55 A U T祭
 - 56 工科大通信
 - 57 校友会
 - 58 ウェブサイト（奨学金について）
<https://www.autjc.ac.jp/campuslife/scholarship/>
 - 59 企業奨学金制度
 - 60 学生生活に関する調査報告
 - 61 P Y E表彰制度
 - 62 愛知工科大学技術後援会「愛技会」
 - 63 2019 学内企業説明会 参加企業一覧
 - 64 2020 大学院・工学部・短期大学 学内合同企業説明会
 - 65 資格を取ろう
 - 66 就職試験を迎えるプログラム

[区分 基準Ⅱ-B-1 学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 教員は、学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。
 - ① 教員は、シラバスに示した成績評価基準により学習成果の獲得状況を評価している。
 - ② 教員は、学習成果の獲得状況を適切に把握している。
 - ③ 教員は、学生による授業評価を定期的に受けて、授業改善に活用している。
 - ④ 教員は、授業内容について授業担当者間での意思の疎通、協力・調整を図っている。
 - ⑤ 教員は、教育目的・目標の達成状況を把握・評価している。
 - ⑥ 教員は、学生に対して履修及び卒業に至る指導を行っている。
- (2) 事務職員は、学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。
 - ① 事務職員は、所属部署の職務を通じて学習成果を認識して、学習成果の獲得

に貢献している。

- ② 事務職員は、所属部署の職務を通じて教育目的・目標の達成状況を把握している。
 - ③ 事務職員は、所属部署の職務を通じて学生に対して履修及び卒業に至る支援を行っている。
 - ④ 事務職員は、学生の成績記録を規程に基づき適切に保管している。
- (3) 教職員は、学習成果の獲得に向けて施設設備及び技術的資源を有効に活用している。
- ① 図書館又は学習資源センター等の専門的職員は、学生の学習向上のために支援を行っている。
 - ② 教職員は、学生の図書館又は学習資源センター等の利便性を向上させている。
 - ③ 教職員は、学内のコンピュータを授業や大学運営に活用している。
 - ④ 教職員は、学生による学内 LAN 及びコンピュータの利用を促進し、適切に活用し、管理している。
 - ⑤ 教職員は、教育課程及び学生支援を充実させるために、コンピュータ利用技術の向上を図っている。

<区分 基準Ⅱ-B-1の現状>

成績評価については学生便覧（提出-1）の学則第21条（学習の評価）、試験及び成績評価に関する規程第13条（成績区分）に定めている。

試験及び成績評価に関する規程

（成績区分）

第13条 成績の評価は次のとおりとし、可以上を合格とする。

- 1. 秀…100点～90点
- 2. 優… 89点～80点
- 3. 良… 79点～70点
- 4. 可… 69点～60点
- 5. 不可… 59点以下

教員は、シラバスに示した成績評価方法に基づいて学習成果の評価を行っている。各授業科目担当者は、定期試験（レポート試験含む）に加えて、通常授業内での参画状況、提出物や臨時試験なども十分に加味して、学習成果の獲得状況を評価している。

担任はWebポータル内の「履修情報」により、各科目担当者が入力した前日までの各学生の出席状況を確認できる。出席の状況によって学生の学習状況を把握し、適切な指導に活用している。学期末におけるクラスごとの成績状況については担任がチェックを行った後に保管している。また、Webポータル内の修学ポートフォリオには学生

個々の「単位数集計」、「GPA」、「直近の学期の履修結果」、「修得成績」が掲載されており、必要に応じて教職員の閲覧も可能であり、担任以外の教員も各学生の学習状況を知ることができる。さらに、教員は単位取得状況、二級自動車整備士等の各種資格取得状況、就職状況について学科会議の資料等で周知されており、学習成果の獲得状況を適切に把握している。

各学期末に「学生による授業評価」（備付-27）を実施しているが、質問項目は「あなた（学生）自身のことについて」、「授業担当者について」、「授業全体について」の3部構成になっている。2019（令和元）年度授業評価の質問内容と授業評価アンケート用紙を表Ⅱ-B-1、2に示す。授業評価の集計結果（備付-28）と回答用紙は学期ごとに学務課より担当教員に配付され、教員見解を記入後返却することになっている。授業評価集計結果の例を表Ⅱ-B-3に示す。集計結果を通して授業評価を客観的かつ効率よく知ることができ、回答用紙の自由記述欄からは個々の学生の授業に対する意見や感想も分かり、次年度以降の授業改善に活用している。授業評価を行ったすべての科目の授業評価結果と教員からの授業改善へのコメントはファイルにして図書館に置かれ、学生も閲覧可能である。

能力別のクラス分けを行う「数学Ⅰ」、「工学基礎」及び複数名の教員が授業を担当する「自動車工学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の授業内容について、新年度開始前の時期に教員打ち合わせ会を実施している。

打ち合わせ会以外でも、普段から自動車棟教員室において教員同士での意思の疎通を図りながら指導方針や進度、学習成果について共通認識ができるようにしている。

「自動車工学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」は各学期の授業内容を実習内容に合わせてそれぞれ3つに分割し、1つを1ショップと教え、前期を前前期と前後期に分け、1日2コマを前前期では2日間、前後期では12日間、後期では12日間かけて1ショップずつ指導し、2年間で18ショップの実習を実施する。同科目は複数名で担当するため1ショップ後、科目担当者ごとに打ち合わせを行い各学生の評価、授業方法の改善点などについて恒常的に細やかな打ち合わせが行われている。

1年前期開講の「数学Ⅰ」及び「工学基礎」については、前期終了後に教科書及び授業内容について毎年度、授業担当者間で協議し、意思の疎通、協力・調整を図っている。

それぞれの科目において、学生の学習成果から学科の教育目的や目標の達成度を把握し、評価している。年度初めに作成した「教育・研究改善取組シート」（備付-25）において教育改善を目標にした教員は教育の質の保証と向上に向けてのPDCAサイクルを実施し、年度末にその達成状況についてコメントと共に提出することで、授業改善に活用している。

入学時より機会あるごとに授業や行事で学生と接して、挨拶や言葉遣い、生活態度等の人間的な成長を見ており、日常生活などの状況から教育目的・目標の達成状況を把握している。学生が学習環境に適応し、スムーズな修学ができるよう、学生の相談相手となって勉学・学生生活など履修から卒業に至る指導・助言を与えるために2年間一貫してクラス担任制（1学年3クラス、1クラス約40名）を設けている。クラス担任は、

入学早々にクラス学生全員と個人面談を実施し学生個々の性格、入学の動機、勉学意欲、基礎的能力、将来の希望等を早期に掌握し、修学、学生生活、進路など様々な相談相手となっている。日常的にはクラス担任が中心となり、履修登録も必ず担任がチェックしている。また、必要に応じて教職員との情報を交換することで、教育の効果の向上に繋げている。

各学期のオリエンテーションが学生に対する履修説明の機会となっている。令和元年度からは初年次教育として「AUT自動車教育入門」を開講し、14名～15名の学生に対し1名のアドバイザー教員をつけ、シラバスや履修条件、履修計画の立て方や資格取得支援体制、進路支援体制に関するアドバイスを通して履修及び卒業に至る指導を行っている。

成績不振者に対しては、個人指導でアドバイスすると共に、平成30年度より、成績不振の学生をいち早く発見し、適切な指導を行うために、学生便覧（提出-1）の授業科目の履修に関する規程第16条の2（退学勧告）、第16条の3（警告）を定め、該当する学生について学科長から勧告または警告を与え、改善を促している。学生全体の履修状況は常に教員全員で共有されており、新年度には必要な申し送りを行う等、すべての教員がそれぞれの立場で個々の学生に対して履修及び卒業に至る指導をきめ細かく行っている。

所属部署の職務から学習成果への係わりが大きい部署は、学務課とキャリア支援課であり、次の通り学習成果の獲得に向けて貢献している。

◆学務課

成績の管理、履修等の相談、教育懇談会の開催、課外活動の支援、奨学金の相談、寮生の生活指導など

◆キャリア支援課

就職支援、各種資格取得支援など

事務職員は単位取得状況や二級自動車整備士等の各種資格試験の結果について、各種会議資料等で周知されており、学習成果を認識している。また、所属部署を問わず、窓口での応対や日常生活において入学時から学生と接しており、挨拶や言葉遣い、生活態度等の人間的な成長を通して学習成果の獲得に貢献している。学生の学習成果の状況については、教務委員会、資格取得指導委員会、学生生活指導委員会でも話し合いがされ、情報共有が必要な事項は学科会議及び教授会に報告される。本学の事務職員は、原則として教授会に陪席するため、教授会の審議・報告内容を通して学生の学習成果を認識している。また、教務委員会及び資格取得指導委員会は学務課から、学生生活指導委員会からはキャリア支援課から、入試広報委員会からは事務局から委員会に1名以上陪席し、主に、運用面でサポートすることで学習成果の獲得に貢献している。

教育目的・目標の達成状況においても、教授会の審議・報告内容を通して教職員間で共有、共通理解されるため、所属部署の職務を通じて把握することができる。

学務課及びキャリア支援課を中心として、履修及び卒業に至る適切な支援を行っている。各学期のオリエンテーションでは、教室の手配や履修に関する資料を準備配布している。オリエンテーションでの履修に関する説明では、教務委員長が行うが、キャリア支援課も同席して、説明のフォローを行っている。履修登録時において、学務課は担任と情報共有しながらチェックを行い、書類不備やサポートが必要な学生を担任に報告している。学務課は、学生の授業への出席状況を「Webポータル」上で更新し、指導が必要な学生について担任に注意を促している。「Webポータル」の情報は全教職員が把握することが可能であり、出席回数不足による定期試験の受験資格喪失を事前に防止することで、卒業に至る支援を行っている。学務課では愛知工科大学工学部との施設の利用状況に応じた調整が必要なため、自動車課とも協力連携しながら、学年歴及び時間割の作成支援が行われている。

学生の成績記録は学務課によって、適切に保管され、卒業後の成績証明書の請求にも適切に応えられている。また、入試に関する受験者の成績等は入試広報課によって、資格試験結果及び就職状況はキャリア支援課によって適切に保管されている。その他の記録についても、個人情報保護の観点から、保管と廃棄については十分注意をして行われている。

平成30年度より、スチューデント・アシスタント取扱規程（提出-1）を制定し、公募によって選ばれた本学学生が毎週水曜日の17時30分から19時00分まで図書館業務の学習相談、レポート作成のアドバイス、PCによる検索機、情報機器（プリンタを含む）、複写機の操作方法についてサポートできるようにした。このため、図書館の事務職員は現在、専任2名、スチューデント・アシスタント1名の計3名であり、開館時間中は、常駐できる体制を整えている。年度初めの新生オリエンテーションでは図書館の利用ガイダンスを実施し、利用方法を指導している。図書館からの情報提供は、図書館入口に掲示板を設けて、掲示のレイアウトに工夫を凝らして新刊書籍の表紙を掲示し、興味・関心を喚起している。

学生に薦めたい書籍について平成26年度より科目内で各教員の推薦図書を紹介し、図書館利用への関心を高める試みを行っている。また、学生が求めている書籍に関する情報も愛知工科大学工学部と共同で運営している図書委員会で検討し購入することで、学習向上のための支援を行っている。

本学では、「自動車工学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」のテーマごとにレポート課題を課している。課題は教科書の内容だけに留まらず、多岐に亘って考察する必要があるため、図書館の活用を促している。また、自動車整備に関わる各自動車メーカーの整備要領書を図書館に配備することで、個々が所有する自動車の整備情報を補うことができるようになっている。

平成27年度より、6号館の図書館閲覧室の利便性を向上させるために、配置を4分割にし、①ラーニングコモンズコーナー、②図書閲覧コーナー、③視聴覚コーナー、④新聞・雑誌コーナー（④のコーナーのみ缶及び蓋付の飲料を可とした）とし、全て談話を許可している。また、4号館の図書館閲覧室にもラーニングコモンズコーナー（談話可）と、図書閲覧コーナー（談話不可）があり、それぞれ閲覧等に適応した環境作りに努め

ている。

学内において、教職員全員に1台ずつパソコンが支給され、全員が授業や業務で活用できるパソコンスキルを獲得している。教室及び実習室には、専用のパソコンとプロジェクターを設置しており、動画、音声、スライドを用いた授業に活用している。最近では、タブレット端末の普及もあり、教員が自らタブレットを利用した授業を展開している。

学生に対しては、パソコン実習室のデスクトップのパソコンを開放している。学生は、レポート課題に取り組み、調査、情報収集などに活用している。パソコン実習室がメディア基盤センター事務室の隣にあるため、学生からの利用に関する質問やパソコンの不具合には、随時職員が対応している。その他にキャリアセンター、図書館にデスクトップのパソコンが設置されており、すべてネットワークにつながっている。それらを自由に利用でき、就職活動や授業に活用されている。

本学の選択科目に「情報リテラシー」がある。この科目は、個人のパソコンを使用するのではなく、学内のパソコン実習室またはLL教室のパソコンを利用している。その他として、2次元CADソフトウェアを利用した「CADシステム」の授業も開講し、コンピュータの利用を促進している。さらに、「自動車工学実習Ⅲ」のオートマチック・トランスミッションに関する実習では各班に1台ずつタブレット端末を配布し、部品構造、脱着手順などをタブレット内の動画やスライド教材を用いて各班の進度に合わせて学習できるように工夫している。このように、学内のコンピュータを授業や大学運営に活用している。

自動車整備士資格取得のために本学独自のeラーニングシステムである「コーカくん」(図Ⅱ-B-1)を活用している。「コーカくん」は、パソコン、携帯電話(スマートフォン含む)に対応し、過去に出題された自動車整備士登録試験問題を何度も繰り返し反復学習できるシステムである。また、問題だけに留まらず、教員による解説も備わっているために、多くの学生が利用している。

「コーカくん」開設当初は自動車整備士登録試験問題サイトのみであったが、本学が推奨しているその他の資格取得にも対応できるように低圧電気試験、中古車査定士試験、ガス溶接試験の3講座を追加し、随時改良を続けて今日に至っている。「コーカくん」の主な取り組みを表Ⅱ-B-1に示す。このような取り組みを通じて、学生によるコンピュータの利用を促進し、適切に活用し、管理している。



図Ⅱ-B-1
コーカくんのトップ画面

表Ⅱ-B-1 「コーカくん」の変遷

平成 21 年度	<p>学生に最も身近で手軽なモバイルコンピュータとして使用されているケータイ電話を利用し、いつでもどこでも気軽に自動車整備士試験の学習をさせるために平成 21 年に整備士試験問題サイト(ケータイサイト)「コーカくん」を作成し学生に公開した。</p> <p>主な機能</p> <p>①年月により問題を検索し解答する機能</p> <p>②問題を分類別に検索して解答する機能</p>
平成 22 年度	<p>①前年度は問題に対する解説がなかったために、より理解度を深めるため問題解答後解説が表示される機能を追加した。そのため学科の教員の協力を得て問題解説を作成し公開した。</p> <p>②学生へ連絡事項を明示する連絡掲示板を作成した。</p>
平成 23 年度	<p>①自動車整備士試験問題サイトのシステムを応用して他の資格を学習できるシステムを作成しコーカくんを総合資格サイトとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低圧電気試験問題サイト ・中古車査定士試験問題サイト ・ガス溶接試験問題サイト ・危険物乙 4 試験問題サイト (未公開) <p>②スマートフォンの急激な普及に対しスマートフォンでもコーカくんが便利に行えるようにコーカくんスマホサイトの作成を行った。</p>
平成 24 年度	<p>①平成 23 年度に作成した「低圧電気試験問題サイト」「ガス溶接試験問題サイト」に問題を入力し学生に公開した。</p> <p>②PC にて学習を行えるようにコーカくん学生用 PC サイト(自動車整備士試験問題サイトのみ)を作成し公開した。PC 独自の機能としては問題を 40 問続けて行い採点できる「テスト」機能を追加した。</p> <p>③教員用のためのサイトを作成した。主な機能は問題の検索、学生の学習履歴の閲覧である。</p> <p>④コーカくん管理者用のサイトを作成した。主な機能は問題の管理と学生データの管理である。</p>
平成 25 年度	<p>①理解度を高めるために、難易度の高い問題に対しては解説動画を作成し学生に公開した。問題解答後に解説動画を閲覧できる仕組みとなっている。</p>
平成 26 年度	<p>①平成 23 年度に作成した「中古車査定士試験問題サイト」に問題を入力し学生に公開した。</p> <p>②解答した問題に対して「理解度」を記録する機能を追加した。(自動車整備士試験問題サイト)問題を検索する時などに活用できる。</p>
平成 27 年度	<p>①理解度の低い問題を選んで繰り返し学習できるように理解度検索の機能を追加した。(自動車整備士試験問題サイト)</p>

平成 28 年度	①関連用語を入力することで目的の問題を抽出できるキーワード検索の機能を追加した。(自動車整備士試験問題サイト)
平成 29 年度	①スマホサイトと PC サイトを行き来できる機能を追加した。(自動車整備士試験問題サイト) ②教員が学生情報を把握するために、テスト履歴を学生名で表示できるようにした。また、その日に行ったテスト結果を太字で確認できるように改善した。
平成 30 年度	①問題及び選択肢をランダムに出題できるようにし、選択肢も解説を紐づけできるようにした。(自動車整備士試験問題サイト)
令和元年度	①問題作成時に選択肢の入れ替えを、スムーズに行えるように改善した。 ②学生が問題を解答したとき、ランダムで解いたのかを分かるようにした。(自動車整備士試験問題サイト)

各教職員は、それぞれの業務、教育課程及び学生支援を充実させるために、コンピュータ利用技術の向上を図っている。

FD・SD委員会が中心となったFD活動の一つとして、平成25年度から関連した科目の連携を深め、より効果的な学習成果を得ることを目的として、下記の5つの専門分野ごとの分科会活動を定期的に行っている。

専門分野 エンジン系、シャシ系、電装系、点検整備系、基礎教育系

その分科会の内容は議事録として保存し、その内容について学科内でも共有している。また、愛知工科大学工学部との共同も含めて平成30～令和元年度は、表Ⅱ-B-2のFD研修会を開催した。

表Ⅱ-B-2 FD研修会の概要

年度	開催日	演題	講師
平成30年度	平成30年 5月15日	相互研鑽による大学教育の飛躍をめざして	愛知工科大学 田川 和義、 高橋 亮
		初年次教育のコア・カリキュラムを考える	愛知工科大学 村上 新
		学士課程教育の質保証	愛知工科大学 杉浦 伸明
		高次の能力を捉えるための評価	愛知工科大学 村上 新

愛知工科大学自動車短期大学

年 度	開催日	演 題	講 師
		学生のパフォーマンス評価を考える	愛知工科大学 杉浦 伸明
		FDのこれまでと、これから	愛知工科大学自動車短期大学 掛布 知仁
		サイエンスリテラシーを養う横断型プログラムのデザインと運用	愛知工科大学 渡部 吉規
		リベラルアーツ教育の展望	愛知工科大学 高橋 義則
平成30年度	平成30年 7月24日	OKIのデジタル変革 (IoT) の取り組み	沖電気工業(株) 藤原雄彦
	平成30年 8月31日	主体的に学習が出来る学生を育成するために～大学生基礎力レポートの結果から、1・2年生の特徴と課題を共有する～	(株)ベネッセ i-キャリア
令和元年度	令和元年 8月30日	2019年度学年別基礎力調査の結果報告	(株)ベネッセ i-キャリア
	令和元年 9月10日	理工系コーオプ／インターンシップ教育における学生、企業人、大学職員の協働と成長	愛知工科大学 村上 新
		学生エンゲージメントと自立を促す支援としかけ～学生に関わる専門職の立場から～	愛知工科大学 米田 守重
		アクティブ・ラーニングを推進するための検討会－小・中学校で行われている授業体験と大学における主体的・協働的な授業－	愛知工科大学 大迫 尚行
		特別支援学校教員における主体的な学修と地域連携の在り方について	愛知工科大学自動車短期大学 服部 幸廣

また、表Ⅱ-B-3に示すように学園本部主催の教職員研修会にも学生支援を充実させる講習やコンピュータの利用技術を向上する講習が開講されており、個々のスキルレベルにあわせて参加しスキルアップを目指している。

表Ⅱ-B-3 教職員研修会の概要（学園本部主催）

年度	開催日	タイトル	講師	
平成30年度	平成30年 8月1日	事務担当者研修	電波学園	
	平成30年 8月2日	等級別研修（4等級）及び事務責任者研修メンバーが生き活きと活動できるこれからの組織創り	TEAM-VISION	
		広報研修	(株)リクルートマーケティングパートナーズ	
		Illustrator（初級編）	電波学園	
		アングーマネジメント研修	一般財団法人日本経営協会	
		クレーム対応	(株)インソース	
		ライフプラン作成研修 1	日本生命	
		ライフプラン作成研修 2	第一生命	
		生涯設計セミナー（生命保険の種類および加入の考え方） 1	日本生命	
		生涯設計セミナー（生命保険の種類および加入の考え方） 2	第一生命	
		生涯設計セミナー（住宅ローン制度）	三菱UFJ銀行	
		相続の基本	三菱UFJ信託銀行	
		介護入門講座	日本生命	
		生涯設計セミナー（リタイアメント）	第一生命	
		確定拠出年金（DC）まるわかり研修	日本生命	
		平成30年 8月3日	等級別研修（5・6等級）提案手法について	(株)リクルートマーケティングパートナーズ
			メンタルヘルス研修「青年期のこころの不調～対処の工夫」	電波学園
	メンタルヘルス研修「こころの不調と不登校・問題行動への対応」		電波学園	
	タイムマネジメント研修		(株)インソース	
	資産運用研修		野村証券	
	ライフプラン作成研修		第一生命	
	生涯設計セミナー（生命保険の種類および加入の考え方） 1		日本生命	

年度	開催日	タイトル	講師
平成30年度	平成30年 8月3日	生涯設計セミナー（生命保険の種類および加入の考え方） 2	第一生命
		相続の基本	三菱UFJ信託銀行
		介護入門講座	日本生命
		確定拠出年金（DC）まるわかり研修	日本生命
	平成30年 12月26日	等級別研修（4等級）メンバーが生き活きと活動できるこれからの組織創り	TEAM-VISION
		等級別研修（5・6等級）提案手法について	㈱リクルートマーケティングパートナーズ
		高専・高大接続改革を見据えた新たな学びの展望	㈱リクルートマーケティングパートナーズ
		Illustrator（イラストレータ）中級編	名古屋工学院専門学校 山田慎、土岐
		スマホを利用した視聴覚資料作成と広報活動への活用（初心者向け）	名古屋工学院専門学校 梅村、富田
		メンタルヘルス研修	臨床心理士 宇土
		ライフプラン作成研修 1	第一生命
		ライフプラン作成研修 2（リタイアメント）	第一生命
		生命保険について学びましょう	第一生命
		失敗事例に学ぶ わが家の相続対策	三菱UFJ信託銀行
		「NISA・つみたてNISA」完全攻略法	三菱UFJ国際投信
		日本発の未来技術について	野村証券
		失敗しないための終活	鎌倉新書 野村証券
		コミュニケーション研修	㈱LIBRA
		プレゼンテーション研修	㈱LIBRA

年 度	開催日	タイトル	講師
令和元年度	令和元年 8月20日	VR/ARの最前線と社会応用の可能性	愛知工科大学 板宮
		「自動車の今後の動向」について	愛知工科大学 梶谷、荒川
		退学防止研修	(株)学び
		教育ドキュメンタリー映画「Most Likely to Succeed」と共に学ぶ	TEAM-VISION
		企画力研修	(株)インソース
		在学生を活用した魅力あるオープンキャンパス作り	(株)リクルートマーケティングパートナーズ
		確定拠出型年金 (DC) まるわかり研修	日本生命
		ライフプランセミナー～充実したより豊かな人生・夢・希望の実現に向けて～	第一生命
		教えて！極めびと～お金の寿命の延ばし方～	三菱UFJ国際投信(株)
	令和元年 8月21日	講演『やってみなきゃわかんないっしょ』	株式会社タイム
		高等課程教員研修	電波学園 山口、原
		教員SNS利用ポリシー研修	(株)かもおん
		在学生を活用した魅力あるオープンキャンパス作り	(株)リクルートマーケティングパートナーズ
		日本発未来技術についてⅡ	野村証券
		リテールテック～無人店舗の普及シナリオ～	野村リサーチ・アンド・アドバイザリー-野村証券
ライフプランセミナー～充実したより豊かな人生・夢・希望の実現に向けて～	第一生命		

年度	開催日	タイトル	講師
令和元年度	令和元年 12月23日	アクティブラーニング研修	(株)学び (株)かもおん
		教育ドキュメンタリー映画「Most Likely to Succeed」と共に学ぶ	TEAM-VISION
		アンガーマネジメント研修	一般社団法人日本経営協会
		ワンペーパー資料作成研修	(株)インソース
		来校者満足度の高い参加したくなるオープンキャンパス作り	(株)リクルートマーケティングパートナーズ
		「思いを伝える」コミュニケーションセミナー	アドシンク(株)
		コーチング研修	アドシンク(株)
		日本発未来技術についてⅡ	野村証券
		確定拠出型年金(DC)まるわかり研修	日本生命
		ライフプランセミナー～充実したより豊かな人生・夢・希望の実現に向けて～	第一生命
教えて！極めびと～お金の寿命の延ばし方～	三菱UFJ銀行		

[区分 基準Ⅱ-B-2 学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 入学手続き者に対し入学までに授業や学生生活についての情報を提供している。
- (2) 入学者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーション等を行っている。
- (3) 学習成果の獲得に向けて、学習の動機付けに焦点を合わせた学習の方法や科目の選択のためのガイダンス等を行っている。
- (4) 学習成果の獲得に向けて、学生便覧等、学習支援のための印刷物（ウェブサイトを含む）を発行している。
- (5) 学習成果の獲得に向けて、基礎学力が不足する学生に対し補習授業等を行っている。
- (6) 学習成果の獲得に向けて、学習上の悩みなどの相談にのり、適切な指導助言を

行う体制を整備している。

- (7) 学習成果の獲得に向けて、通信による教育を行う学科・専攻課程の場合には、添削等による指導の学習支援の体制を整備している。
- (8) 学習成果の獲得に向けて、進度の速い学生や優秀な学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っている。
- (9) 必要に応じて学習成果の獲得に向けて、留学生の受入れ及び留学生の派遣（長期・短期）を行っている。
- (10) 学習成果の獲得状況の量的・質的データに基づき学習支援方を点検している。

＜区分 基準Ⅱ-B-2の現状＞

入学手続者に対して、「入学手続案内」（備付-36）を送付し、入学前のスケジュールや入学前に取り組むことを推奨する自動車に関連の深い科目を紹介し、入学式、入学直後の予定などを知らせている。

入学試験の面接の中で数学の口頭試問を行い、学習支援が必要であると判断した者に対しては入学前に数学の通信添削指導を行っている。

入学後の学内オリエンテーションでは、学生生活に関すること、資格・免許状取得に関することや実習について、カリキュラムと単位の意味や時間割、卒業要件などの履修説明、学生相談室の紹介と利用方法などについての説明を行っている。内容によって学年全体やクラスごとに実施し、共通での情報提供をクラスでもフォローできるようにしている。

各学期初めのオリエンテーションにおいて、学習の動機付けに焦点を合わせた学習の方法や科目の選択など、学修全般について説明を実施している。

学習支援のための印刷物として、教育目標・方針、履修方法、授業概要（シラバス）、学生生活全般にわたる支援事項等が記載されている学生便覧（提出-1）を発行している。なお、学生便覧はホームページでも閲覧できるようにしている。

入学時に実施する数学と工学基礎の素養試験により「数学Ⅰ」と「工学基礎」の2科目は習熟度別の各5グループ編成とし、各々のレベルに適した授業内容としている。また、「数学Ⅰ」では4回の習熟度確認のための臨時試験を実施し、習熟度の低い3グループでは成績不振者に補習授業を行い基礎学力の向上を図っている。なお、「数学Ⅰ」と「工学基礎」は科目担当者が中心となり3段階の難易度別の練習問題を取り入れた独自のテキスト（備付-48、49）を作成し、出身高校での学習内容の違いや個々の習熟度に対応できるように配慮している。

クラス担任制度及びオフィスアワーにより学生個々の修学上の悩みなどの相談にのり、生活・学習・進路指導をきめ細かく行っている。また、学生相談室には臨床心理士が常駐し、学習面以外の相談にも対応し、心のサポートを行っている。

本学は、通信による教育は行っていない。

自動車工学実習関係については、経験ある専門担当者が対応し、実習中あるいは授業後に指導を受けられるように対応している。全体的には、授業内容を教材や進度で

段階的に修得できるように工夫し、学生の反応を考慮しながら、進度の早い学生や優秀な学生にも対応できるよう学生レベルに応じて配慮している。

4年制大学編入を目指す学生に対しては、「英語Ⅱ」「数学Ⅱ」「物理学」「材料力学」「熱力学」「流体力学」等、4年制大学工学部への編入に役立つ教養科目と機械系科目を選択科目として設定している。

留学生対象の入学試験を平成25年度より実施しているが、令和元年度までの入学者数を表Ⅱ-B-4に示す。留学生への学習面、生活面での対応は担任、学務課等で行っているのが現状で、留学生を支援するための特別な組織はない。なお、平成26年度より短期留学生の派遣・受入を検討するための国際交流センター委員会を愛知工科大学と共同で開催している。

表Ⅱ-B-4 留学生の入学者数

年度	留学生の出身国名	入学者数
平成26年度	ネパール	1
平成27年度	ベトナム	2
	中国	1
平成28年度	モンゴル	1
	中国	1
平成29年度	インドネシア	1
	ベトナム	1
	中国	1
平成30年度	ベトナム	1
	中国	2
	ネパール	1
令和元年度	ベトナム	2
	中国	2

学習成果の量的データとして成績やGPAを活用し、学習支援方策を点検している。質的データについては授業科目の満足度を半期ごとの「授業評価アンケート」で調査し、さらに、2年間全体の「満足度調査」を卒業時に実施することで、学習支援方策を点検している。令和元年度満足度調査の質問内容と集計結果を表Ⅱ-B-5、6に示す。また、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた質問内容別満足度を令和元年度までの5年間集計した結果を表Ⅱ-B-7及び図Ⅱ-B-2に示す。学習支援に直接関係する質問は「③カリキュラムはどうでしたか、④学習指導はどうでしたか、⑤資格取得指導はどうでしたか、⑦自動車の実習施設はどうでしたか」であるが、いずれも満足度が9割以上を占めている点から学習支援に対する質的評価は概ね良いものと判断している。

また、別の観点から、平成28年度より卒業式に参加していただいた保護者に対して、本学に対する満足度調査を実施している。なお、令和元年度はコロナウイルスの

問題で保護者の卒業式への参加をお断りしたため、実施していない。平成30年度の意見であるが、「大変満足している」「満足」が10割を占めていることから、保護者からの評価としても良いものと受けとめている。アンケート内容については表Ⅱ-B-8に、結果については図Ⅱ-B-3に示す。今後もこの調査を続け、教育活動、学生支援に反映していきたいと考えている。

表Ⅱ-B-5 令和元年度 満足度アンケート質問内容

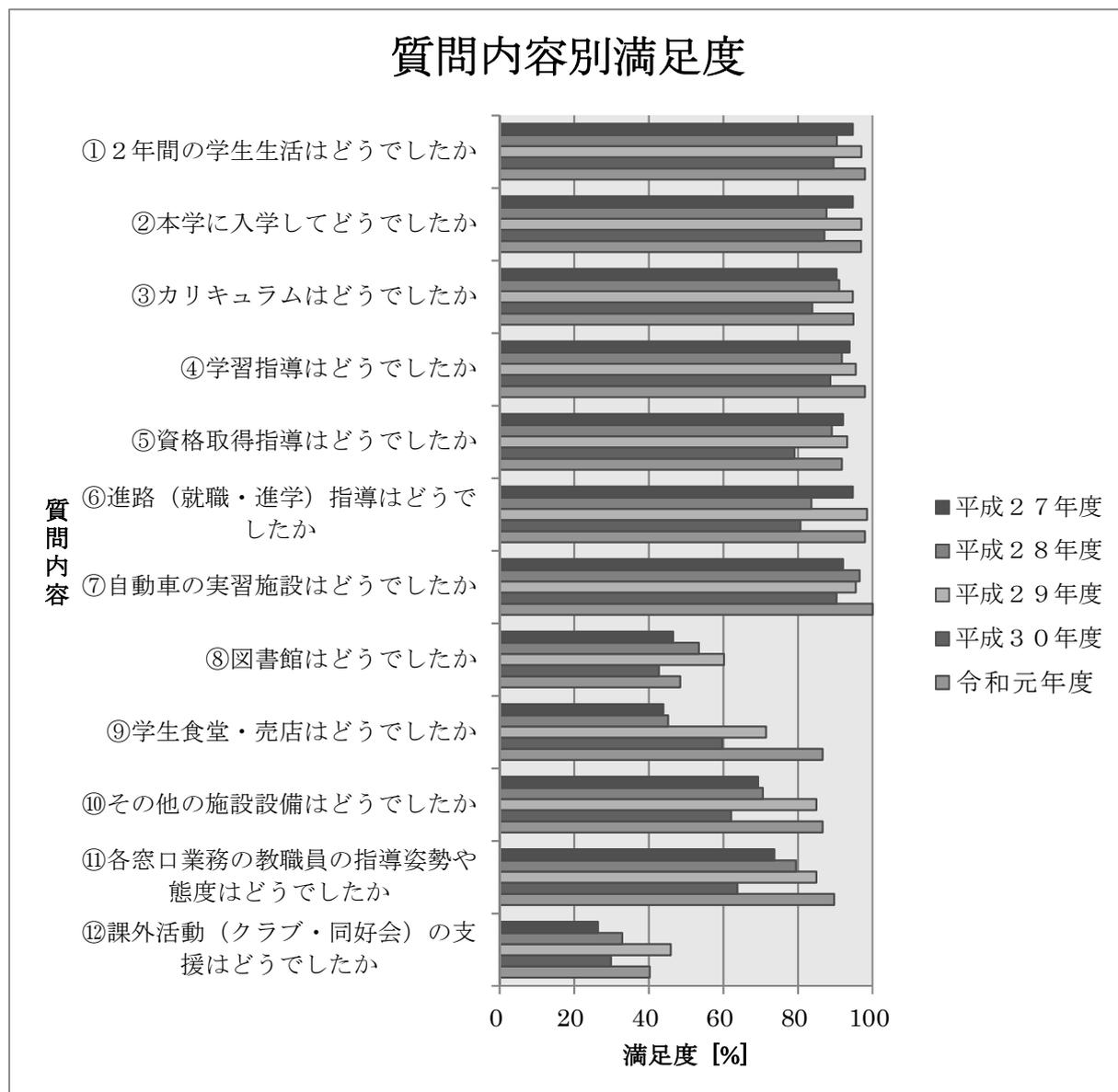
質問内容	回答
①2年間の学生生活はどうでしたか。	1 満足 2 どちらかといえば満足 3 どちらかといえば不満 4 不満 5 該当なし
②本学に入学してどうでしたか。	
③カリキュラムはどうでしたか。 (カリキュラムとは、2年間で学習する科目、および科目配列)	
④学習指導はどうでしたか。	
⑤資格取得指導はどうでしたか。	
⑥進路(就職・進学)指導はどうでしたか。	
⑦自動車の実習施設はどうでしたか。	
⑧図書館はどうでしたか。	
⑨学生食堂・売店はどうでしたか。	
⑩その他の施設設備はどうでしたか。	
⑪各窓口業務の教職員の指導姿勢や態度はどうでしたか。	
⑫課外活動(クラブ・同好会)の支援はどうでしたか。	

表Ⅱ-B-6 令和元年度 満足度アンケート調査結果

質問 回答	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
1 [%]	59.8	63.9	46.4	52.6	51.5	60.8	79.4	19.6	38.1	38.1	43.3	17.5
2 [%]	38.1	33.0	48.5	45.4	40.2	37.1	20.6	28.9	48.5	48.5	46.4	22.7
3 [%]	0.0	1.0	3.1	1.0	5.2	1.0	0.0	6.2	6.2	7.2	6.2	5.2
4 [%]	2.1	2.1	2.1	1.0	0.0	1.0	0.0	1.0	5.2	2.1	1.0	0.0
5 [%]	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	44.3	2.1	4.1	3.1	54.6
空白 [%]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0

表Ⅱ-B-7 質問内容別満足度（満足＋どちらかといえば満足）

質問内容	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
①2年間の学生生活はどうでしたか	94.7%	90.4%	97.0%	89.5%	97.9%
②本学に入学してどうでしたか	94.7%	87.7%	97.0%	87.1%	96.9%
③カリキュラムはどうでしたか	90.4%	91.1%	94.7%	83.9%	94.8%
④学習指導はどうでしたか	93.9%	91.8%	95.5%	88.7%	97.9%
⑤資格取得指導はどうでしたか	92.1%	89.0%	93.2%	79.0%	91.8%
⑥進路（就職・進学）指導はどうでしたか	94.7%	83.6%	98.5%	80.6%	97.9%
⑦自動車の実習施設はどうでしたか	92.1%	96.6%	95.5%	90.3%	100.0%
⑧図書館はどうでしたか	46.5%	53.4%	60.2%	42.7%	48.5%
⑨学生食堂・売店はどうでしたか	43.9%	45.2%	71.4%	59.7%	86.6%
⑩その他の施設設備はどうでしたか	69.3%	70.5%	85.0%	62.1%	86.6%
⑪各窓口業務の教職員の指導姿勢や態度はどうでしたか	73.7%	79.5%	85.0%	63.7%	89.7%
⑫課外活動（クラブ・同好会）の支援はどうでしたか	26.3%	32.9%	45.9%	29.8%	40.2%



図Ⅱ-B-2 質問内容別満足度（満足+どちらかといえば満足）

表 II-B-8 保護者アンケート

平成 年 月 日



卒業式における保護者アンケート

ご卒業おめでとうございます。お子さまにおかれましては本学における教育を修了され、卒業証書を手に入れます日が参りましたことを心よりお祝い申し上げます。
 本学では、保護者の皆様からのご意見を頂き、今後の教育活動や学生募集活動に反映したく考えております。
 ご協力のほど、よろしく願いたします。

問1 お子さまが卒業される学科は

愛知工科大学	1. 機械システム工学科	2. 電子制御・ロボット工学科	3. 情報メディア学科
愛知工科大学自動車短期大学	4. 自動車工業学科		
愛知工科大学大学院	5. 前期課程	6. 後期課程	

問2 お子さまが卒業されるにあたり、本学への満足度をお答えください

①教育に対する満足度は
 5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない

②設備に対する満足度は
 5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない

③資格取得、技術修得に対する満足度は
 5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない

④卒業後の進路（就職先や進学先）についての満足度は
 5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない

⑤本学へ進学させたことに対して
 5. とてもよかった 4. よかった 3. どちらともいえない 2. あまりよくなかった 1. よくなかった 0. わからない

問3 お子さまや保護者に対する教職員のサポートについての満足度をお答えください

①入学前の教職員の対応（入学相談、オープンキャンパス、入試対応など）に対する満足度は
 5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない

②在学中の教員の対応（学生への対応や保護者会などの対応）に対する満足度は
 5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない

③在学中の事務職員の対応（授業料納付・成績の案内・奨学金対応など）に対する満足度は
 5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない

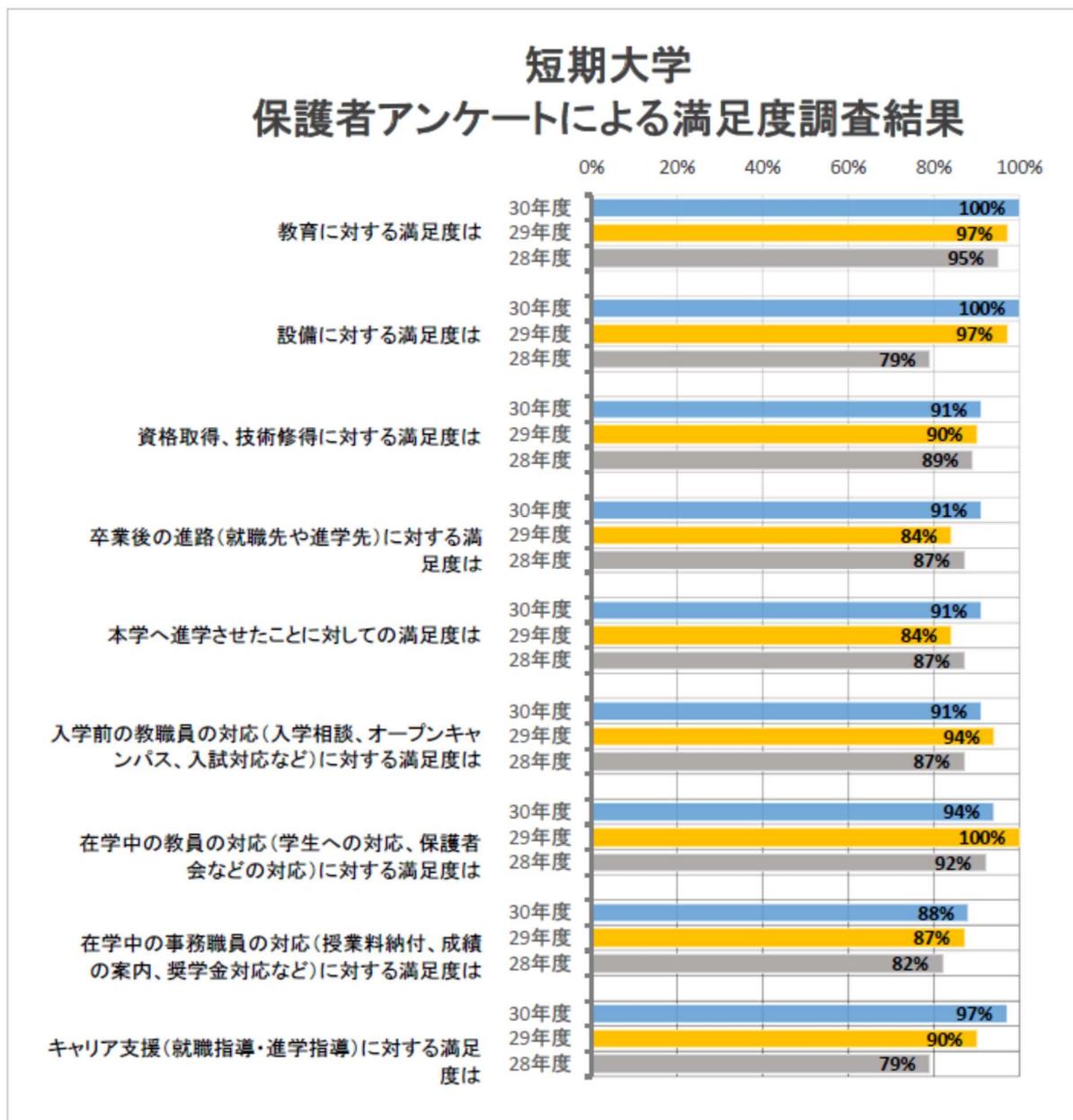
④キャリア支援（就職指導・進学指導）に対する満足度は
 5. たいへん満足 4. 満足 3. どちらともいえない 2. やや不満 1. 不満 0. わからない

自由記述欄（お気づきになりました本学の良い点、改善すべき点、ご感想などをいただけたら幸いです）

問4 ご記入いただきましたのは

1. 父親 2. 母親 3. 祖父 4. その他（ ）

卒業されるお子さまのお名前（任意）
 （お名前をご記入いただける方は願いたします） _____



図Ⅱ-B-3 質問内容別満足度（満足+たいへん満足）

[区分 基準Ⅱ-B-3 学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学生の生活支援のための教職員の組織（学生指導、厚生補導等）を整備している。
- (2) クラブ活動、学園行事、学友会など、学生が主体的に参画する活動が行われるよう支援体制を整えている。
- (3) 学生食堂、売店の設置等、学生のキャンパス・アメニティに配慮している。
- (4) 宿舎が必要な学生に支援（学生寮、宿舎のあっせん等）を行っている。
- (5) 通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）を図っている。

- る。
- (6) 奨学金等、学生への経済的支援のための制度を設けている。
 - (7) 学生の健康管理、メンタルヘルスケアやカウンセリングの体制を整えている。
 - (8) 学生生活に関して学生の意見や要望の聴取に努めている。
 - (9) 留学生が在籍する場合、留学生の学習（日本語教育等）及び生活を支援する体制を整えている。
 - (10) 社会人学生が在籍する場合、社会人学生の学習を支援する体制を整えている。
 - (11) 障がい者の受入れのための施設を整備するなど、障がい者への支援体制を整えている。
 - (12) 長期履修生を受入れる体制を整えている。
 - (13) 学生の社会的活動（地域活動、地域貢献、ボランティア活動等）に対して積極的に評価している。

＜区分 基準Ⅱ-B-3の現状＞

[区分 基準Ⅱ-B-3 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている。]

■ 基準Ⅱ-B-3の自己点検・評価

学生の生活支援のための教職員の組織は、クラスの担任を基軸とし、学生生活指導委員会の教員（学生指導、厚生補導、就職支援、奨学金を含む生活支援）と学務課職員で構成している。

また、クラブ・同好会活動、ボランティア活動、校友会（同窓会）、学生会による学校祭など、学生や卒業生が主体的に参画する活動が行われるよう支援体制も整備されている（備付-55、56）。クラブ・同好会活動への参画状況を表Ⅱ-B-9に示す。

表Ⅱ-B-9 クラブ・同好会活動への参画状況

部	団体名	2017年度	2018年度	2019年度
		会員数	会員数	会員数
体育系	バスケットボール部	8	5	9
	野球部	5	4	7
	AUTサッカー部	6	5	11
	ヨット部	0	0	0
	K耐久	1		
文科系	ロボット研究部	0	0	0
	ソーラーカー部	2	3	0
	電音部	8	1	6
	軽音楽部	0	0	0
	蒲郡フリーダム研究部	0	0	
	シュークリーム女子部	7	6	7
	宇宙技術研究部	0		

	STELA		0	0
	プログラミング研究部	0	0	0
	AUT活動部	0	0	0

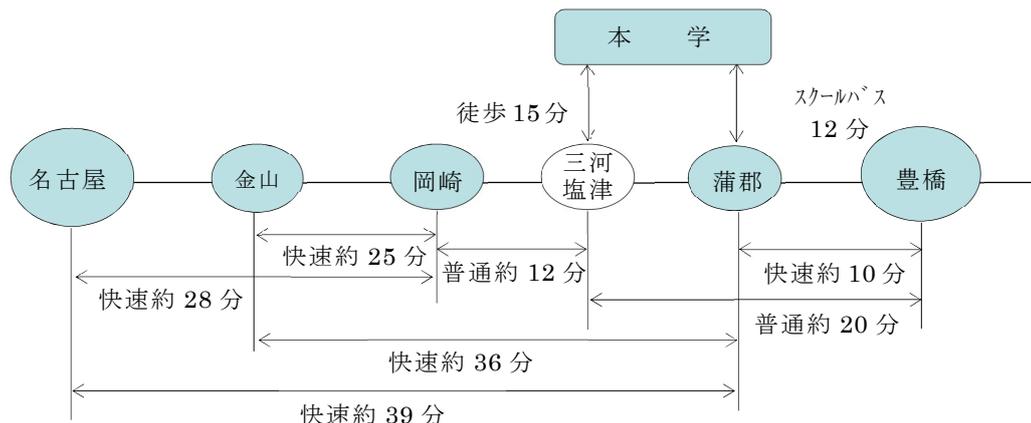
同好会	団体名	2017年度	2018年度	2019年度
		会員数	会員数	会員数
体育系	卓球	1	1	0
	バレーボール同好会			0
	AUT TENNIS		0	0
	ダンス	0	1	
	ビリヤード	3	30	
	サイクリング	1		
文科系	ものづくり	0	0	0
	ラジコン	16	16	8
	蒲郡Fan	0	0	0
	音響	8	0	3
	ライティング	8	0	3
	AUTプラモデル	2	0	0
	NGA同好会		0	0
	月刊スポーツ		0	0
	VR部		0	0
	ボードゲームサークル			4
	談話室@PT・JT	0		
	ネクストメディア		0	
	AUT GUNS		0	
	ACTIVE		5	
	VSC		0	
	3Dモデリング研究会		0	
	環境保護サークル		0	
TRPG	0	0		
自動車文化	0			

本学学生の文化系クラブ・同好会への加入総数 2017年度 76名、2018年度は、77名、2019年度は 59名であった。少ない会員数であっても活発に活動しているクラブ・同好会はあるものの、全般には加入状況は芳しくない。課外活動等は人間形成に大切なものであり、参加しやすい工夫や支援が必要である。

学生食堂、売店(コンビニエンスストア)、書店の設置等キャンパス・アメニティにも配慮している。また学生食堂は 2017年度(平成 29年度)に全面改装を行い、メニューも一新されている。表Ⅱ-B-7の満足度調査⑨「学生食堂・売店はどうでしたか」の結

果は2016年度(平成28年度)の45.2%から2017年度(平成29年度)には71.4%に上昇し、2018年度(平成30年度)は59.7%、2019年度(令和元年)は86.6%と比較的高い水準となっている。これより、学生の満足度は食堂の改装・メニューの一新により向上したと考える。

遠方からの入学者のため、宿舎(寮、学生会館)を設置するとともに、アパート等の紹介を行っている。また、通学の利便性を高めるため図Ⅱ-B-4に示すように、大学とJR蒲郡駅間の無料スクール・バスの運行を行うとともに、自車で通学する学生のために駐輪場・駐車場を設置して便宜を図っている。



図Ⅱ-B-4 公共交通機関とスクール・バスを利用しての通学所要時間

学生への経済的支援は表Ⅱ-B-10に示すように、公的機関である日本学生支援機構の奨学金、文部科学省の外国人留学生学習奨励費給付金の他、本学独自の奨学生制度として、学校法人電波学園奨学金(恒学基金)、学修奨学金制度、教育ローン利子補給奨学金、ファミリー奨学金や授業料免除制度を設けている。加えて2019年度(令和元年度)より、本学の後援会企業と連携して企業奨学金制度(備付-59)を設け、学費の負担が軽減できるように検討している。学生の健康管理、メンタルヘルスやカウンセリングについては常勤の臨床心理士を配置し対応している。学生相談室の利用状況を表Ⅱ-B-11に示すが、年次・年度において変化があるものの、まとまった相関は見られない。また、学生生活に関する学生の意見・要望・提案等については、学内に「ご意見・ご提案箱」を設置し、提出された意見等に速やかに対処できる体制をとっている。さらに、卒業時に在学中の満足度等についてのアンケートを毎年実施し改善のための参考にしている。加えて「学生生活に関する調査報告」(備付-60)を3年に1度ずつ行っている。

留学生については、若干ながら増加をしており、生活面は担任と学生生活指導委員会、学務課が協力してサポート体制をとっている。また、学習面では個別指導や提供するプリントにルビを振るなどの配慮を施している。留学生の内訳は、2017年度(平成29年度)は中国1名、ベトナム1名、インドネシア1名、2018年度(平成30年度)は中国2名、ベトナム1名、ネパール1名、2019年度(令和元年度)は中国2名、ベトナム2名がそれぞれ入学している。

社会人の入学者数は極めて少なく、2017年度(平成29年度)から2019年度(令和元年度)まで、社会人入試制度を使用した者は2人である。従来の既卒者で学習に不安のある者はオフィスアワーを使用したり、担任からの個別指導を受ける形で学習支援を行っている。

障がい者用の施設設備は多目的トイレや手すりの設置など適宜設置しているが、本学は自動車整備を中心とした教育を行っているため、危険を伴う作業や実習が多く、障がい者の受け入れを制限せざるを得ない状況である。

学生の社会的活動(地域活動、地域貢献、ボランティア活動)については、一定の期間、活動した者に対し「社会貢献活動」の科目を単位認定する規程を設け評価する体制を整えるとともに、平成26年度から行っている学業だけでなくボランティア活動、課外活動、資格取得、各種講座の受講、インターンシップ、大学祭の運営などに積極的に参加した者や取り組んだ者に対し、表Ⅱ-B-12に示す「努力の成果」(Points for Your Efforts)を称えるPYE表彰制度(備付-61)も継続中である。

表Ⅱ-B-10 各種奨学金等利用者数(人)

年度/項目	日本学生 支援機構	授業料 免除	恒学基金	教育ローン 利子補給	ファミリー 奨学金	学修 奨学金
2017年度(平成29年度)	62	9	0	1	2	4
2018年度(平成30年度)	33	10	0	0	5	4
2019年度(令和元年度)	53	1	1	0	4	3

表Ⅱ-B-11 学生相談室利用状況(人)

項目/年度	2017(H29)年度		2018(H30)年度		2019(R1)年度	
	1年	2年	1年	2年	1年	2年
相談内容						
学業	0	2(1)	0	0	0	0
進路	0	3(1)	0	0	0	0
対人	1(1)	12(3)	3(1)	3(2)	13(3)	0
学生生活	1(1)	0	2(2)	4(2)	0	2(1)
適応(疾病障がい)	1(1)	1(1)	3(2)	0	10(3)	1(1)
その他	2(1)	1(1)	1(1)	0	10(5)	1(1)
合計	5(4)	19(7)	9(6)	3(1)	33(11)	4(3)

※数値は利用回数、()内の数値は利用者数

表Ⅱ-B-12 PYE制度による表彰状況(人)

項目/年度	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)
PYE制度による表彰者数	1	3	4

[区分 基準Ⅱ-B-4 進路支援を行っている。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 就職支援のための教職員の組織を整備し、活動している。
- (2) 就職支援のための施設を整備し、学生の就職支援を行っている。
- (3) 就職のための資格取得、就職試験対策等の支援を行っている。
- (4) 学科・専攻課程ごとに卒業時の就職状況を分析・検討し、その結果を学生の就職支援に活用している。
- (5) 進学、留学に対する支援を行っている。

<区分 基準Ⅱ-B-4 の現状>

就職支援は、学生生活指導委員会とクラス担任及びキャリア支援課が緊密に連携をとりながら協力して行っている。キャリアセンターにはキャリア支援課の事務職員が常駐し、求人開拓、企業との情報交換及び連絡、学生と企業との仲介、会社案内・求人票等の整理・閲覧などの他、資格取得や就職試験対策の支援も行っている。

就職支援のための施設の整備としては、キャリアセンターに4台の学生用パソコンが設置し、大学求人NAVIにより求人情報を検索・閲覧できるようになっている。また、本学には自動車整備関連業界の182社(2019(令和元)年度)が加盟する「愛知工科大学技術後援会(愛技会)」(備付-62)、学生の就職支援(CS講座等の講師派遣、最新の車両を用いた技術講習会、学内企業説明会、整備職内定者に対する夏休み期間中の職場体験実習)や教育・研究活動の支援(軽自動車耐久レース参戦の支援)を行っており、この事務局はキャリア支援課となっている。愛技会の会員数は毎年順調に増加(表Ⅱ-B-13)しており、近年では積極的に教材を提供いただける企業も多くなっている。2019(令和元)年度の愛技会加盟企業一覧を表Ⅱ-B-14に示す。

この愛技会の会員企業を招聘し、本学体育館にて「学内企業説明会」(備付-63)を12月に毎年実施している。また、整備職を希望せず、一般製造業に就職を希望する者には、本学工学部で主催される学内企業説明会(備付-64)にも参加できるようにしている。

就職のための資格取得の支援については、資格取得指導委員会とキャリアセンターが中心となって毎年、入学時に「資格を取ろう」(備付-65)という資料を作成し、学生の就業への意識を高めている。就職試験対策については、1年生後期に開講する必修科目「キャリアデザイン」の中で、無理のないように就職試験に臨むプログラム(備付-66)を用意している。

就職率は、平成29年度99.2%、平成30年度98.3%、令和元年度100%と高く、4月上旬の自動車整備士登録試験の合格発表を待って就職活動する等の特別な事情のある学生を除いて、ほぼ満足できる結果となっている。中でも自動車ディーラーや自動車メーカーなどへの専門性を活かした就職率の高いことが本学の長である。就職・進学状況を表Ⅱ-B-15に示す。

進学支援は、愛知工科大学工学部3年次への編入(一級自動車整備士養成課程含む)及び他大学への3年次編入であるが、一級自動車整備士養成課程への編入はクラス担

愛知工科大学自動車短期大学

任が中心に指導し、他大学への3年次編入は愛知工科大学総合教育センターの協力を
受けながら指導にあたっている。

表Ⅱ-B-13 愛技会 会員企業数

項目\年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
会員数(社)	177	180	182

表Ⅱ-B-14 愛技会 加盟企業一覧 2019(令和元)年度

会社名		会社名		会社名	
1	アース電機(株)	62	(株)スズキ自販三重	123	ネッツトヨタ中部(株)
2	(株)アイカーズ	63	スバル東愛知販売(株)	124	ネッツトヨタ東海(株)
3	愛知自動車(株)	64	住友建機販売(株)	125	ネッツトヨタ富山(株)
4	愛知スズキ販売(株)	65	(株)清和自動車	126	ネッツトヨタ名古屋(株)
5	愛知トヨタ自動車(株)	66	瀬戸いすゞ自動車(株)	127	ネッツトヨタノヴェルとやま(株)
6	愛知日産自動車(株)	67	(株)ダイハツ三重	128	ネッツトヨタ浜松(株)
7	愛知日野自動車(株)	68	太平自動車商会(株)	129	ネッツトヨタ東名古屋(株)
8	(株)I.P.S.コーポレーション	69	太陽建機レンタル(株)	130	ネッツトヨタ福井(株)
9	(有)青山自動車	70	(株)ダイレクトカーズ	131	ネッツトヨタ三重(株)
10	(株)渥美モーターズ	71	瀧富工業(株)	132	(株)バーデン
11	(株)五十鈴工作所	72	(株)タクトィー	133	八光自動車工業(株)
12	いすゞ自動車近畿(株)	73	宝交通(株)	134	浜松日産自動車(株)
13	いすゞ自動車中部(株)	74	中京・愛知クライスラー(株)	135	(株)ピーシーエス
14	(株)インターヨーロッパ	75	中部資材(株)	136	東愛知日産自動車(株)
15	(株)ウィン	76	中部三菱自動車販売(株)	137	福井日産自動車(株)
16	(株)エアスト	77	つしまオート(株)	138	フジ自動車工業(株)
17	(株)エヌディエスリース	78	(株)テラダパーツ	139	古河機械金属(株)
18	エフエルシー(株)	79	(株)東海イエローハット	140	碧南運送(株)
19	S Gモーターズ(株)	80	東海自動車工業(株)	141	(株)ホワイトハウス
20	大阪トヨタ自動車(株)	81	東海ニチユ(株)	142	(株)ホンダウイズ
21	大阪日野自動車(株)	82	東海マツダ販売(株)	143	(株)ホンダカーズ愛知
22	(株)オートサービス大興	83	富山ダイハツ販売(株)	144	(株)ホンダカーズ蒲郡
23	(株)オートプレステージ	84	富山トヨタ自動車(株)	145	(株)ホンダカーズ静岡
24	岡崎ヤナセプランニング(株)	85	トヨタL&F中部(株)	146	(株)ホンダカーズ静岡西
25	(株)カナモト	86	トヨタカローラ愛知(株)	147	(株)ホンダカーズ三重
26	刈通オートテクノ(株)	87	トヨタカローラ愛豊(株)	148	(株)ホンダカーズ三重東
27	(株)ガレージ新和	88	トヨタカローラ大阪(株)	149	(株)ホンダカーズ三河
28	北愛知三菱自動車販売(株)	89	トヨタカローラ岐阜(株)	150	(株)ホンダクリオ東海
29	(株)キノシタ	90	トヨタカローラ静岡(株)	151	(株)ホンダ小牧
30	岐阜スズキ販売(株)	91	トヨタカローラ中京(株)	152	(株)ホンダ販売名東
31	岐阜トヨタ自動車(株)	92	トヨタカローラ東海(株)	153	(株)ホンダ四輪販売北陸
32	岐阜日産自動車(株)	93	トヨタカローラ富山(株)	154	(株)ホンダ四輪販売三重北
33	岐阜日野自動車(株)	94	トヨタカローラ名古屋(株)	155	(株)ボディエーションショップ杉浦
34	キムラユニティー(株)	95	トヨタカローラ南信(株)	156	ボロネーゼ(株)
35	キリックスリース(株)	96	トヨタカローラ三重(株)	157	(株)前田製作所
36	(株)クオリア	97	(株)トヨタレンタリース名古屋	158	丸八重整備(株)
37	(株)グッドスピード	98	豊橋三菱ふそう自動車販売(株)	159	三重いすゞ自動車(株)
38	(株)クライム	99	豊橋ヤナセ(株)	160	三重ダイハツ販売(株)
39	(株)クリエイト	100	(株)ナイエン	161	三重トヨタ自動車(株)
40	(株)畔柳工業	101	長野トヨタ自動車(株)	162	三重トヨペット(株)
41	(株)ケーユーホールディングス	102	長野日産自動車(株)	163	三重日産自動車(株)
42	(株)寿陸運	103	長野日野自動車(株)	164	三重日野自動車(株)
43	(株)コバック	104	名古屋スバル自動車(株)	165	三重三菱自動車販売(株)
44	コマツカスタマーサポート(株)	105	名古屋ダイハツ(株)	166	三河ダイハツ(株)
45	神戸トヨペット(株)	106	名古屋トヨペット(株)	167	三河日産自動車(株)
46	サーラカーズジャパン(株)	107	西尾レントオール(株) 中部支店	168	三菱ふそうトラック・バス(株)
47	埼玉トヨペット(株)	108	(株)日産サテリオ富山	169	(株)ミヤセ自動車
48	坂井モーター(株)	109	日産プリンス静岡販売(株)	170	(株)名鉄アオト
49	サンアイ自動車(株)	110	日産プリンス名古屋販売(株)	171	名鉄自動車整備(株)
50	静岡スバル自動車(株)	111	日産プリンス三重販売(株)	172	明豊自動車(株)
51	静岡ダイハツ販売(株)	112	日通商事(株) 名古屋支店	173	(株)ヤナセ 名古屋営業本部
52	静岡トヨタ自動車(株)	113	日本キャタピラー(同)	174	(株)ヤマト
53	静岡トヨペット(株)	114	(一社)日本自動車機械工具協会	175	UDトラックス(株) 中部支社
54	静岡日産自動車(株)	115	(一社)日本自動車連盟 中部本部	176	ユタカ産業(株)
55	静岡日野自動車(株)	116	(株)2りんかんイエローハット	177	吉田自動車販売(株)
56	静岡マツダ(株)	117	(株)ネクステージ	178	(株)レッドバロン
57	重機商工(株)	118	ネッツトヨタ愛知(株)	179	(株)レント
58	新明工業(株)	119	ネッツトヨタ静岡(株)	180	(株)ロイヤルオートサービス
59	(株)スズキ自販中部	120	ネッツトヨタ静浜(株)	181	ロジスネクスト中部(株)
60	(株)スズキ自販東海	121	ネッツトヨタ中央大阪(株)	182	(株)渡辺自動車
61	(株)スズキ自販浜松	122	ネッツトヨタ中京(株)		

表Ⅱ-B-15 就職・進学状況

項目\年度	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)
卒業生数	150	141	100
進学希望者数	28	15	18
進学者数	28	15	18
進学率	100%	100%	100%
就職希望者数	121	121	78
就職者数(a)	120	121	78
就職率	99.2%	100%	100%
専門職就職者数(b)	120	118	77
専門職就職率 (b/a)×100	100%	97.5%	98.7%

(専門職就職とは自動車整備などの自動車工学の専門性を活かす就職を意味する。)

<テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援の課題>

進路未決定者をゼロにすることが最も重要な課題となる。そのためには進路に関する情報提供をさらに進め、就職活動などの不活発学生への働きかけを強める方策の検討が課題である。

<テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援の特記事項>

<基準Ⅱ 教育課程と学生支援の改善状況・改善計画>

(a) 前回の認証(第三者)評価を受けた際に自己点検・評価報告書に記述した行動計画の実施状況

卒業認定に関する方針は、時代のすう勢に合わせて正しい社会規範意識も持つことを育成できるものに改善したいと考えている。これに伴い、教育課程の編成及び実施に関する方針の内容も見直し分かり易いものにするのを2020年度で検討する予定である。

(b) 今回の自己点検・評価の課題についての改善計画

入学者受入れの方針を卒業の認定に関する方針と教育課程の編成及び実施に関する方針に沿った分かり易いものになるよう2019(令和元)年度に見直している。さらにその方針に従って、高大接続の観点より2020(令和2)年度入学希望者に対する入学制度の改善に取り組む。

【基準Ⅲ 教育資源と財的資源】

[テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源]

＜根拠資料＞

- 備付資料 67 教員個人調書 [様式 18]
 68 教員研究業績書 [様式 19]
 69 非常勤教員一覧表 [様式 20]
 70 ウェブサイト (教員紹介)
 <https://www.autjc.ac.jp/outline/teacher/>
 71 教員一覧表
 72 専任教員の研究活動状況表 [様式 21]
 73 外部研究資金の獲得状況一覧表 [様式 22]
 74 愛知工科大学紀要 第 巻
 75 愛知工科大学紀要 第 巻
 76 愛知工科大学紀要 第 巻
- 備付資料 愛知工科大学自動車短期大学学科長選考規定
 -規程集 愛知工科大学自動車短期大学教職員任用及び昇任規定
 愛知工科大学自動車短期大学名誉教授授与規定
 愛知工科大学・愛知工科大学自動車短期大学教職員の兼業及び兼職に関する規定
 大学教員研究費規程
 大学教育改革・特別研究プロジェクト研究経費規程
 大学教員研究旅費規程
 愛知工科大学自動車短期大学共同研究取扱規程
 愛知工科大学自動車短期大学受託研究取扱規程
 愛知工科大学自動車短期大学研究倫理規程
 愛知工科大学自動車短期大学研究倫理に係る教育・研修要領
 愛知工科大学自動車短期大学 FD・SD 委員会規程

[区分 基準Ⅲ-A-1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教員組織を整備している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 短期大学及び学科・専攻課程の教員組織を編制している。
- (2) 短期大学及び学科・専攻課程の専任教員は短期大学設置基準に定める教員数を充足している。
- (3) 専任教員の職位は真正な学位、教育実績、研究業績、制作物発表、その他の経歴等、短期大学設置基準の規定を充足しており、それを公表している。

- (4) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて専任教員と非常勤教員（兼任・兼担）を配置している。
- (5) 非常勤教員の採用は、学位、研究業績、その他の経歴等、短期大学設置基準の規定を遵守している。
- (6) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて補助教員等を配置している。
- (7) 教員の採用、昇任はその就業規則、選考規程等に基づいて行っている。

＜区分 基準Ⅲ-A-1 の現状＞

本学は1学科のみの単科短期大学であり、専任教員16名、助手3名、専任事務員3名で構成され短期大学設置基準を準拠すると同時に、国土交通省が定める基準にも準拠している。また、二級ガソリン自動車整備士及び二級ジーゼル自動車整備士の国家試験の実技試験免除のための講習会が2年次の10月から3月まで実施されているが、これについても、専任教員（指導員有資格者）が所定時間担当している。

教員構成は表Ⅲ-A-1に示すとおり、学長以下、教授4名、准教授3名、助教9名、助手3名で構成され短期大学設置基準を踏まえて必要な専任教員を配置し充足している。さらに、国土交通省の認定大学であることから「自動車整備士養成施設の指定等の基準」に基づく必要な教員数（学科指導員や実習指導員）を適切に配置している。従って、専門分野の主要な授業科目は、学習成果を高めるため専任教員が担当している。また、学科の教育課程編成・実施の方針に即した教員を補助教員も含めて配置している。

表Ⅲ-A-1 教員組織の概要（人）（令和元年度）

学科等名	専任教員数					設置基準で定める教員数〔イ〕	短期大学全体の入学定員に応じて定める専任教員数〔ロ〕	設置基準で定める教授数	助手	非常勤教員	備考
	教授	准教授	講師	助教	計						
自動車工業学科	4	4	0	7	15	10		4	5	6	
（小計）	4	4	0	7	15	10		4	5		
〔その他の組織等〕											
短期大学全体の入学定員に応じて定める専任教員数〔ロ〕							4	2			
（合計）	4	4	0	7	15		14	4	5		

専任教員の学位、教育実績、研究業績等については、本学ホームページの教員紹介において個々の情報を公開している。ならびに自動車工業学科としての研究紹介、社会連携の紹介などもホームページ上で公開している。

専任教員の学位・業績等の資格要件は、短期大学設置基準に基づき整備された愛知工科大学自動車短期大学教員選考基準の規程に定められている。さらに、所属学会、愛知工科大学紀要、自動車整備技術に関する研究報告誌等で公表され、その経歴、研究業績等は、「教員の個人調書」（備付-67）にて毎年更新している。教員の採用、昇任は、就業規則、選考規程に基づいて、毎年学長主導の諮問委員会で審議され、教授会の議を経て決定されている。

[区分 基準Ⅲ-A-2 専任教員は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 専任教員の研究活動（論文発表、学会活動、国際会議出席等、その他）は学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて成果をあげている。
- (2) 専任教員個々人の研究活動の状況を公開している。
- (3) 専任教員は、科学研究費補助金、外部研究費等を獲得している。
- (4) 専任教員の研究活動に関する規程を整備している。
- (5) 専任教員の研究倫理を遵守するための取り組みを定期的に行っている。
- (6) 専任教員の研究成果を発表する機会（研究紀要の発行等）を確保している。
- (7) 専任教員が研究を行う研究室を整備している。
- (8) 専任教員の研究、研修等を行う時間を確保している。
- (9) 専任教員の留学、海外派遣、国際会議出席等に関する規程を整備している。
- (10) FD活動に関する規程を整備し、適切に実施している。
 - ① 教員は、FD活動を通して授業・教育方法の改善を行っている。
- (11) 専任教員は、学生の学習成果の獲得が向上するよう学内の関係部署と連携している。

<区分 基準Ⅲ-A-2 の現状>

専任教員は学科の教育・研究方針に沿って、自動車工学や自動車整備に関連する学会や研究会に所属し研究活動を行っている。その成果は、全国自動車短期大学協会主催の研究発表会、各種学会での講演発表会等で報告している。平成27年度～令和元年度の研究活動状況を表Ⅲ-A-2（備付-72）に示す。

専任教員個々人の研究活動は、本学ホームページ内の「教員紹介」内でリンクさせた「Researchmap」（研究者情報を収集・公開するとともに、研究者等による情報発信の場や研究者等との間の情報交換の場を提供することを目的として、国立研究開発法人科学技術振興機構が運営するサービス）や、本学が年2回（3月および9月）編集・発行する小冊子「Koka TIMES」（提出-84）により公開している。

外部研究費等の獲得として、(一財)東京自動車技術普及協会への研究助成金申請は活発であり研究費をほぼ毎年獲得しているが、科学研究費補助金などの申請実績はない。平成29年度～令和元年度の外部研究資金の獲得状況を表Ⅲ-A-3に示す。

研究活動に関する規程として、大学教員研究費規程、大学教育改革・特別研究プロジェクト研究経費規程、大学教員研究旅費規程、愛知工科大学自動車短期大学共同研究取扱規程、愛知工科大学自動車短期大学受託研究取扱規程が整備されており適切な運営がなされている。

研究倫理を遵守する取り組みとしては、愛知工科大学自動車短期大学研究倫理規程を定めるとともに、愛知工科大学自動車短期大学研究倫理に係る教育・研修要領を定め運用している。

毎年度発刊される「愛知工科大学紀要」(備付-74、75、76)で研究成果を公表する機会を確保しており、その巻末の「業績リスト」で当該年度の研究成果や社会的活動を広く学内外に公開している。

専任教員が研究を行う教員室、研究室等が整備されている。助教以上の教員については、個室の研究室が与えられており、各自の研究活動や教育準備を行っている。また、助手については、自動車工業学科教員室にて自席が確保されている。

専任教員は、大学・短期大学の教育職員の勤務に関する規程第5条で、原則土曜日を学外研修日とすることができる。また、必要に応じて学会発表や研修会に参加できるようにしているが、授業担当時間数、さらに、補習授業や資格取得のための講習を行った上で研究時間を確保するため、十分な研究時間が確保できていない教員が多いのが現状である。

専任教員の留学、海外派遣に関する規程は、現在整備されていない。また、国際会議に出席する場合は、前述の大学教員研究費規程、大学教育改革・特別研究プロジェクト研究経費規程、大学教員研究旅費規程に関する規程を流用している。

FD活動に関する規程として、愛知工科大学自動車短期大学FD・SD委員会規程が設けられている。具体的には、外部機関が主催するFD・SD研修会や講習会への参加、他大学主催のFD講演会の聴講によるFD・SD活動に関する調査・研究を行っている。また、学内ではFD・SD活動の一環と位置づけて、月1回程度、本学学長が全教職員を対象とした、教育・研究の方向性や学科の将来像などについての様々なプレゼンテーションを行っている。さらに、教員個人として、一人ひとりが毎年度PDCAシート(備付-25)を作成・活用し、授業内容や教育方法を改善している。これは、年度当初に授業・教育方法の改善目標を掲げ、その実施計画(Plan)および実施方法(Do)を記入し、年度末にその成果の確認(Check)および次年度への更なる改善策(Action)を記入するものであり、FD・SD委員会が取りまとめている。また、すべての教科目の最終日に、受講学生に対して授業アンケート(備付-27)を実施しており、各教科目の成績とアンケートの集計結果をもとに、教育の質保証に取り組んでいる。

学内の教務委員会、資格取得指導委員会、基礎教育センター、キャリアセンターと連携して、開講科目の改善、各種資格の取得支援、学生の基礎学力向上支援などの体制を整えることで、学生個人の学習成果の向上に繋げている。

表Ⅲ-A-2 専任教員の研究活動状況表 (平成27年度～令和元年度)

氏名	職位	研究業績				国際的 活動の 有無	社会的 活動の 有無	備考
		著 作 数	論 文 数	学発 会表 等数	そ の 他*			
中島守	教授	17	7		2	有	有	学科長
森勝行	教授	10				無	有	令和元年度末退職
高田富男	教授	6				有	有	学科長補佐
掛布知仁	教授	5	1			無	有	
服部幸廣	准教授	4	1		1	無	有	
吉田昌央	准教授	9	9	9	1	有	有	
平野博敏	准教授	5	4			無	有	
齋藤健	准教授					無	有	
長谷川康和	助教		1		4	無	有	
鵜飼達也	助教		1		3	無	有	
加藤寛	助教		1		5	無	有	
鈴木規文	助教		3	2		無	有	
小野淳一	助教					無	有	
岩瀬正幸	助教		2			無	有	
甲村一貴	助教		5	1	2	無	有	
小野秀文	助手	5	5	2		無	有	
川村貴裕	助手	5				無	有	
鈴木拓也	助手					無	有	
巨藤 誠	助手		2		2	無	有	平成29年6月着任
阿多 萌	助手			1	1	無	有	平成31年4月着任

* 本学の「教育改革・特別研究プロジェクト」での成果による業績など

表Ⅲ-A-3 外部研究資金の獲得状況一覧表 (平成29年度～令和元年度)

その他の 外部研究 資金	年度	調達先・資金名等	研究者名	研究課題
	平成 29	東京自動車技術普及協会	小野秀文 吉田昌央 鈴木規文 平野博敏	ブレロード用教材を用いた学生の主体性を引き出す実習の試み
平成 30	東京自動車技術普及協会	服部幸廣 甲村一貴 巨藤 誠	大型車用ホイール・ボルトの締め付けトルクと軸力の関係に及ぼす潤滑状態の影響（二硫化モリブデン入り潤滑剤を用いた場合の特性）	

	平成 30	東京自動車技術普及協会	平野博敏 湊 史仁 高田浩充 高田富男	ヘッドライト・シュミレータの製作 について(第2報)
	令和 元	東京自動車技術普及協会	服部幸廣 甲村一貴 巨藤 誠	大型車用ホイール誤組時の締め付け トルクと軸力の関係(スチール・ホ イールをアルミホイール用のホイー ル・ボルトで締め付けた場合の特 性)
	令和 元	東京自動-車技術普及協会	鈴木拓也 吉田昌央 齋藤 健 川村貴裕	自動車走行音に関する教材製作の試 み

(a)課題

専任教員間で研究活動に差が認められる。教育教材の開発やグループ研究などを活発化して、大学における社会的使命である教育と研究の双方の底上げが必要である。また、必ずしも十分な研究費や研究旅費及び研究時間が確保されているとは言えないが、専任教員自身も積極的な外部研究費等の獲得申請、業務の効率化による研究時間の捻出等に努力することは必要である。そして、今後の研究活動の国際化を考えると、専任教員の留学、海外派遣、国際会議出席等の機会が増えることが予想されるので、これらに関する規程の整備が望まれる。